

ノートルダム清心女子大学
地域連携・SDGs 推進センター実績報告書

[2020（令和2）年度]

ノートルダム清心女子大学
地域連携・SDGs推進センター

目 次

センター長ご挨拶	1
I. 地域連携・SDGs 推進センターの概要	2
II. 地域連携ポリシーと SDGs 推進ポリシー	5
III. 実績報告（地域連携）	7
1. これまでの協定締結	7
2. 連携協定に基づく活動実績一覧（協定締結順）	7
3. その他の連携活動実績一覧	11
4. 各連携協定に基づく活動に関する報告（協定締結順）	12
1) NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山との包括連携協定に基づく活動	12
2020 年度「国際塾」の報告	12
2) JA 岡山との包括連携協定に基づく活動	14
「JA 岡山 未来の米食育プロジェクト」活動報告	14
3) 岡山市との包括連携協定に基づく活動	17
ももちゃり MAP 制作プロジェクト：産官学連携（センター直轄）	17
市・岡山芸術創造劇場準備室との連携（センター直轄）	19
市・第一生命保険（株）との寄付連携（センター直轄）	21
2020 年度「清心子育てプロジェクト」への寄付に関する報告	22
「ツボジョーワールド探検隊」一坪田譲治ゆかりの地巡りツアーの実施	23
「おかやま秋の収穫祭 地産地消マルシェ 2020」活動報告	27
『桃太郎伝説』のおもてなしプログラム活動報告	29
「フルーツパフェの街おかやま」活動報告	31
市主催「Society5.0 社会実装研究会」への参加と依頼報告（センター直轄）	32
5. その他の連携活動に関する報告	34
令和 2 年度「地域を学んでのこさずたべよう」事業に関する報告	34
IV. 実績報告（SDGs 推進）	36
1. 「SDGs 理解」推進に関する活動実績一覧	36
2. SDGs の達成に関する活動実績一覧	37
3. SDGs 推進に関する活動報告	39
1) 「さんかくウィーク 2020 実行委員会」活動報告	39

2) 岡山県への政策提言活動の支援	40
3) 2020 年模擬国連活動報告	41
4) 模擬国連・政策提言活動報告と感想	45
4. SDGs 推進に関する資料	46
1) ヒューライツ大阪 Focus 誌 SDGs 特集への寄稿（英訳版）	46
2) 山陽新聞 SDGs 特集への本学掲載記事	49
3) ナミュール・ノートルダム修道女会国連オフィス・ブログ内の SDGs 記事（訳）	50

センター長ご挨拶

ノートルダム清心女子大学地域連携・SDGs 推進センター長 山下 美紀

ノートルダム清心女子大学の建学の精神に基づき、地域への貢献、および、「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals = 以下 SDGs と表記)の達成を推進することを目的として2019年4月1日より、地域連携・SDGs 推進センターは始動しています。

これまで、岡山市をはじめ、こくさいこどもフォーラム岡山(インターキッズ)、山陽新聞社、早島町、和気町、岡山市農業協同組合と連携協定を結び、地域との連携協力に取り組んでまいりました。

世界的にも困難を抱える状況下で、活動に制約があるのも事実ですが、さまざまな可能性を視野に入れ、持続可能な取り組みを模索しながら、活動を続けることを使命と考えております。

今後、地域との連携および持続可能な開発目標を達成するための活動は、ますます重要になってくると思われます。本学には当センターのほか、産学連携センター、生涯学習センターを配置しておりますが、各センターの強みを生かしながら協力体制をとり、ますます地域貢献・地域発展に寄与しうるべく活動を進展させていく所存でございます。本学ならではの地域連携・SDGs を推し進めてまいりますので、今後とも皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

I. 地域連携・SDGs 推進センターの概要

1. 設立の趣旨

ノートルダム清心女子大学地域連携・SDGs 推進センターは、前身の地域連携センターを拡充し、総合的な地域貢献活動と「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs) の達成、及び関連学術研究・人材育成に取り組むことを目的としている。

2. 活動のポリシー

- ・地域連携ポリシー：岡山・中四国地域の諸団体（地方自治体、産業界、メディア、公益社団・財団法人、NPO 法人等）との連携を引き続き発展させるとともに、京阪神・関東圏・海外の諸団体、国際機関、国際協力 NGO 等との連携も視野に入れる。
- ・SDGs 推進ポリシー：本学の母体ナミュール・ノートルダム修道女会の長年にわたる国際連合や開発途上国での活動、SDGs 制定への尽力、及び世界中の系列大学・学校での SDGs 実践等をふまえた「SDGs 理解」と、女子大学である本学の特徴をふまえた SDGs の達成とを推進する。

3. 組 織

名 称：ノートルダム清心女子大学地域連携・SDGs 推進センター

(NDSU Center for Regional Collaboration and SDGs Promotion : NRS)

開 設 日：2019 年 4 月 1 日（旧地域連携センター 開設日：2014 年 4 月 1 日）

スタッフ：地域連携・SDGs 推進センター長 山下 美紀

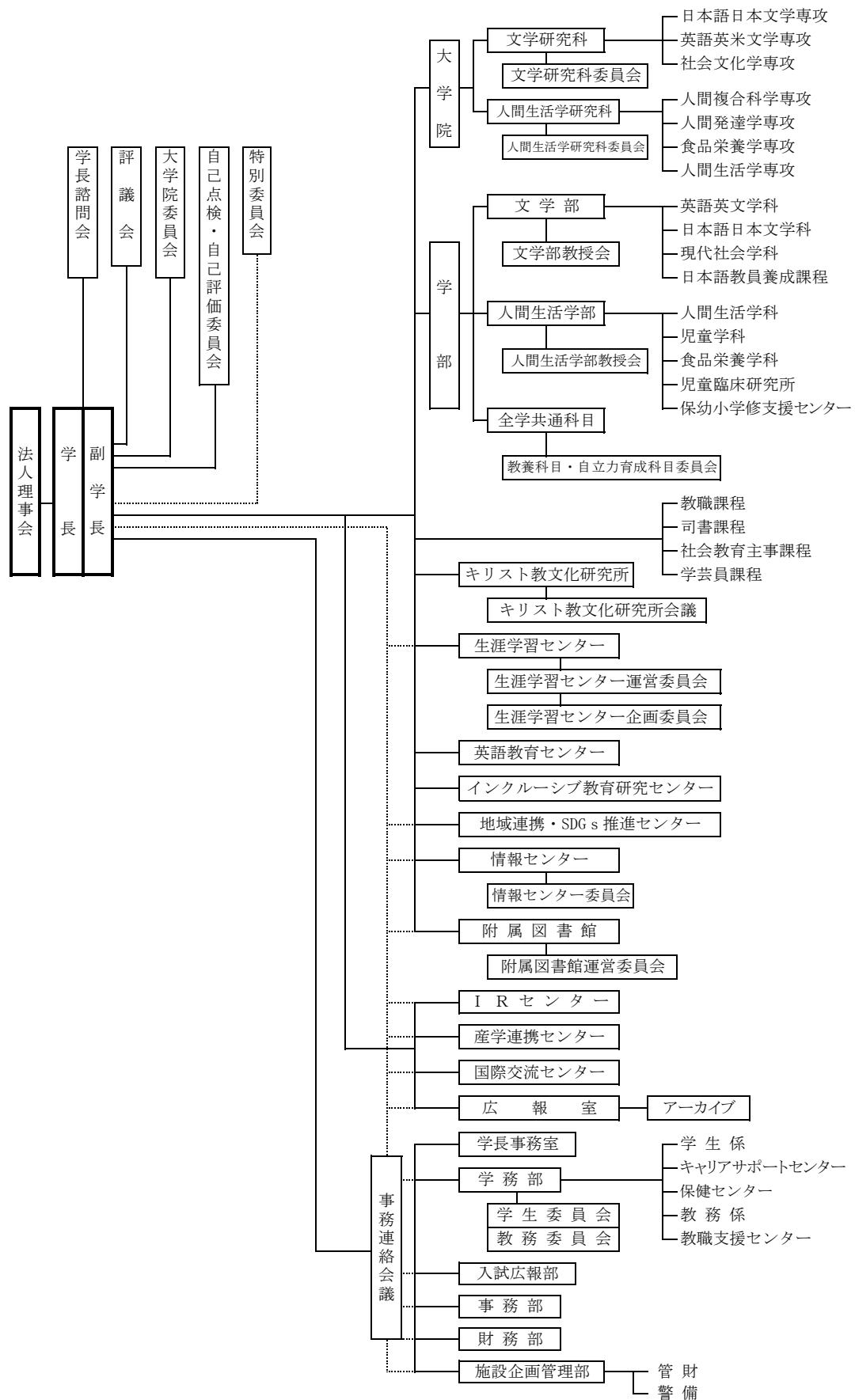
同上 主任 濱西 栄司

同上 所員 Sr. 高木 孝子

同上 所員 豊田 尚吾

同上 事務職員 山下 隆尋

ノートルダム清心女子大学運営組織（2020（令和2年）年5月1日現在）



4. ノートルダム清心女子大学地域連携・SDGs 推進センター規則

(設置と目的)

第1条 ノートルダム清心女子大学（以下、「本学」という。）の建学の精神に基づき、地域社会への貢献、及び「持続可能な開発目標」（SDGs）の達成を推進することを目的として、地域連携・SDGs 推進センター（以下「センター」という。）を置く。

2 センターの英語名を NDSU Center for Regional Collaboration and SDGs Promotion とする。

(地域連携・SDGs 推進センター運営会議)

第2条 本学における地域連携及びSDGs 推進の方針を決定し、その具体的な内容を検討するため地域連携・SDGs 推進センター運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

2 運営会議については、別に定める。

(業務)

第3条 センターは、運営会議が決定する本学の地域連携・SDGs 推進の方針に従い、地方自治体、産業界、公益法人、NPO 法人、国際機関、国際協力 NGO 等、地域社会・国際社会で活動する諸団体と連携し、地域への貢献とSDGs の推進、学術研究、幅広い人材の育成を行う。

(組織)

第4条 センターの責任者として、地域連携・SDGs 推進センター長（以下、「センター長」という。）を置く。

2 センター長は、教員の中から学長が任命する。

3 センター長は、センターを代表し、これを統括する。

4 センターに主任を置く。主任は、センター長の命を受け、センターの業務を処理する。

6 センターに所員及び学外所員を置くことができる。

7 センターにワーキンググループを置くことができる。

(事務)

第5条 センターに事務職員を置く。事務職員は、センターの事務を処理する。

(経費)

第6条 センターに係る諸経費は本学の予算から支弁する。

(改正)

第7条 この規則の改廃は、運営会議及び評議会の議を経て学長が行う。

附 則

1. この要領は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

2. この規則の制定に伴い、従前の「ノートルダム清心女子大学地域連携センター規則（2014 年 4 月 1 日施行）」は、廃止する。

Ⅱ. 地域連携ポリシーと SDGs 推進ポリシー

地域連携・SDGs 推進センター主任 濱西 栄司

1. 地域連携・SDGs 推進センターの設立

ノートルダム清心女子大学地域連携・SDGs 推進センターのポリシー（上記「Ⅰ. 地域連携・SDGs 推進センターの概要」を参照）は地域連携ポリシーと SDGs 推進ポリシーに区別されているが、関連しあっている。

「地域」連携という言葉には、地理的に近接する地域、local での連携というニュアンスはもちろん、（日本の、ひいては世界の）各地域、regional での連携というニュアンスも込められている。もとより連携の中心は岡山にあるとしても、中四国地域、さらに関西や関東の団体、また後述する SDGs の観点からは海外の団体や国際機関との連携も、射程に入ってくる。センターの英語名があえて、より広く「regional」collaboration となっているのはそのためである。

より多くの、より多様な、外部団体と連携し、ときに連携協定を結び、数を増やしていくこと（量的発展）以上に、一つ一つの連携をより双方向的にして、互いの発展により寄与するようなものにしていくこと（質的发展）を重視している。連携を双方向的なものにするためには、こちら側にも目指すビジョン（こだわりと言い換えてもよい）がなければならない。そのようなビジョン・こだわりは、地域連携ポリシーそのものよりも、本学の建学理念はもちろん、もう一つの軸である SDGs のポリシーによって規定されることになる。

「SDGs」という言葉は、近年、日本でも知られるようになっていて、岡山でもかなり注目されているが、本センターのポリシーにおいて「SDGs」とは、もちろん、本来の SDGs、すなわち国際連合で合意がなされた『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ』のなかに位置づけられた SDGs、を指している。つまり、2030 年までに世界をおおきく変えていく（Transform）ことの必要性・切迫性をうったえ、ジェンダー平等を含めた一人一人の「人権」をすべての目標（Goals）の土台として位置づける「2030 アジェンダ」のなかに位置づけられたところの、SDGs を推進していくということである。

SDGs は、MDGs はもちろん、国際連合の長年の取り組み（そこには NGO も関与してきた）の延長上にあり、その本来の意味を理解するには、もちろんその歴史を知り、SDGs 制定過程での議論もふまえておく必要がある。本学の母体修道女会（ナミュール・ノートルダム修道女会：Sisters of Notre Dame de Namur[SND, SND de N]）は、長年、開発途上国の支援に携わり、国際連合にアドバイスする NGO としての資格も有している。SDGs の制定にもグローバルなネットワークを駆使して関与してきた。フランス革命後にはじまる母体修道女会の理念や活動、実績は、本学の建学理念にももちろん投影されているのであり、その存在は、地域連携・SDGs 推進センターにとっては極めて貴重なものである——筆者が知る限り、そのような組織を母体に持つ大学は日本にはほかに存在しない。ポリシー

において、国際連合とダイレクトにつながっている母体修道女会の「SDGs 理解」の推進を掲げているのはそのためである。

加えて本学は、岡山にある県内唯一の女子大であり（正規教員の半分も女性である）、戦後すぐに米国人シスターらによって短大ではなく4年制大学として設立され、女子教育に多大な実績を残してきた。SDGs 推進ポリシーで述べている「本学の特徴」とはそういうことであり、その特徴をふまえば、SDG5（2030 アジェンダにおいて強調されて SDGs のなかでも重要な目標とされる「ジェンダー平等」）の推進を核にすること、他の目標を SDG5 と関連付けて推進していくという、「SDGs の実践」上の方向性が自然と引き出されてくるのである。

そのようなポリシーを地域の現場で実践していく場合の枠組み（手法や戦略の幅や発想）には、地域連携ポリシーも関連してくることになる。このように、SDGs 推進ポリシーは、＜双方向的な地域連携を発展させる際に＞ビジョンを提供し、地域連携ポリシーは、＜SDGs 推進を現場で実践する際に＞枠組みを提供してくれるのである（下図参照）。

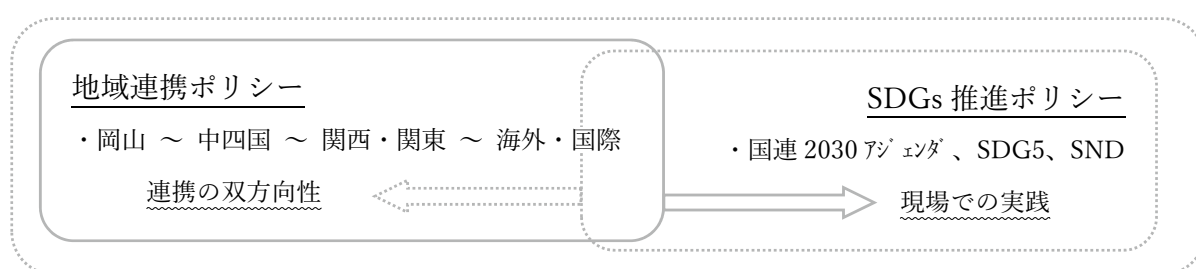


図 地域連携ポリシーと SDGs 推進ポリシーの関係性

本報告書は、2021 年度の本センターの活動実績を記したものである。もとよりノートルダム清心女子大学全体の地域連携や SDGs 推進の活動を報告するものではない。各教員や学生は、学内の各部署は、さまざまなかたちで地域貢献・社会貢献活動をおこなっているが（それらは大学 HP の学科ブログ等において紹介されている）、本報告書はあくまでも地域連携・SDGs 推進センターが直接的にかかわっている活動事例の報告に限定している。

本報告書では前半を地域連携、後半を SDGs 推進の活動実績一覧としているが、両者はもともと密接に関連していることが多く、さらに昨今、SDGs が認知されるにつれて、各連携先団体が SDGs と関連付けてさまざまな事業を実施されるようになることも増えている。それゆえ、区分はあくまでも便宜的なものとお考えいただきたい。

なお、本報告書中に山陽新聞社の記事が転載されているが、これは同社との包括連携協定にもとづいて特別に許可されているものである。同社への謝意とともにここに付しておきたい

Ⅲ. 実績報告（地域連携）

1. これまでの協定締結

- ・ 2014（平成 26）年 6 月 1 日
岡山市教育委員会との間で連携協力に関する協定を締結
- ・ 2014（平成 26）年 8 月 8 日
早島町との間で包括的連携協力に関する協定を締結
- ・ 2014（平成 26）年 8 月 25 日
株式会社山陽新聞社と包括的連携協力に関する協定を締結
- ・ 2014（平成 26）年 8 月 25 日
こくさいこどもフォーラム岡山との間で包括的連携協力に関する協定を締結連携協力に関する協定を締結
- ・ 2016（平成 28）年 5 月 12 日
和気町との間で包括的連携協力に関する協定を締結
- ・ 22018（平成 30）年 5 月 23 日
岡山市農業協同組合（JA 岡山）との間で包括的連携協力に関する協定を締結
- ・ 2018（平成 30）年 11 月 2 日
岡山市との間で包括的連携協力に関する協定を締結

2. 連携協定に基づく活動実績一覧（協定締結順）

1) 岡山市教育委員会との連携活動実績

年 月 日	内 容
【継続】2019(令和元)年 10月1日	岡山市社会教育委員に現代社会学科の二階堂裕子教授が委嘱される。 委嘱期間：2019 年 10 月 1 日～2021 年 9 月 30 日
2020(令和2)年6月29日	岡山市特別支援連携協議会委員に児童学科の青山新吾准教授が委嘱される。 委嘱期間：2020 年 8 月 1 日～2022 年 7 月 31 日
2020(令和2)年7月17日	令和元年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価に係る外部 評価委員意見交換会に、現代社会学科の二階堂裕子教授が参加する。
2020(令和2)年8月6日	岡山市立第一藤田小学校授業研究会 指導助言者として、児童学科の 杉能道明准教授が「新学習指導要領に即した算数科の授業づくり」 について講義を行う。
2020(令和2)年10月20日	岡山市立城東台小学校授業研究会 指導助言者として、児童学科の赤 木雅宣教授が公開授業・研究協議へ参加する。
2020(令和2)年11月10日	岡山県・岡山市教員等育成協議会委員として、児童学科の青山新吾 准教授が委嘱される。 委嘱期間：2020 年 11 月 10 日～2021 年 3 月 31 日
2020(令和2)年11月30日	岡山市立富山小学校授業研究会 指導助言者として、児童学科の赤木 雅宣教授が公開授業・研究協議へ参加する。
2020(令和2)年12月24日	岡山市立第一藤田小学校授業研究会 指導助言者として、児童学科の 杉能道明准教授が「算数科の授業における主体的に学ぶための手立 て」について講義を行う。

2) 株式会社山陽新聞社との連携活動実績

年 月 日	内 容
2020(令和2)年4月1日	山陽新聞カルチャープラザ講師として英語英文学科の広瀬佳司教授に派遣依頼。出張講義「原書で読むアメリカ文学」 2020年4月1日～2021年3月31日
2020(令和2)年4月1日	山陽新聞カルチャープラザ講師として日本語日本文学科の東城敏毅教授に派遣依頼。出張講義「『万葉集』の世界」 2020年4月1日～2021年3月31日
2020(令和2)年7月25日	吉備創生カレッジ講師として英語英文学科の Thomas Fast 准教授に派遣依頼。出張講義「Learning English with Music」
2020(令和2)年9月9日	吉備創生カレッジ講師として部食品栄養学科の小林謙一教授に派遣依頼。出張講義「アミノ酸と健康科学」
2020(令和2)年10月2日 新型コロナ禍で中止	吉備創生カレッジ講師として現代社会学科の福田 雄講師に派遣依頼。出張講義「慰霊祭・追悼式の社会学」
2020(令和2)年10月5日	吉備創生カレッジ講師として人間生活学科の成清仁士准教授に派遣依頼。出張講義「地域づくりと図書館活用」

3) NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山（インターキッズ）との連携活動実績

年 月 日	内 容
2020(令和2)年7月19日	第4回国際塾講師として清心中学校・清心女子高等学校 三宅聖子校長に派遣依頼。出張講義「国連公認 NGO に参加して私が体験したこと——現場から生まれた SDGs・2013 年に見たもの」
2020(令和2)年8月9日	第7回国際塾講師として児童学科 福原史子准教授に派遣依頼。出張講義「世界への扉を開く鍵は何か——五感？英語？探究心？」
2020(令和2)年9月22日	第9回国際塾講師として児童学科 日下紀子准教授に派遣依頼。出張講義「上手に聴いて、自分の気持ちをきちんと伝えよう——コミュニケーションにおける自己表現」 【第4・7・9回の詳細は活動報告に掲載】

4) 岡山市農業協同組合（JA 岡山）との連携活動実績

年 月 日	内 容
2020(令和2)年9月25日 ～継続中	JA 岡山、食品栄養学科（小山洋子研究室）の連携活動「未来の米食育プロジェクト」【詳細は活動報告に掲載】

5) 岡山市との連携活動実績（その1：委嘱・依頼関係）

年 月 日	内 容
【継続】2019(平成30)年 11月	岡山市人事委員会委員として、児童学科の西井麻美教授が委嘱される。 委嘱期間：2019年2月1日～2023年1月31日
【継続】2019(平成31)年 4月1日	市民の童話賞選考委員として、児童学科の村中李衣教授、日本語日本文学科の星野佳之准教授が委嘱される。 委嘱期間：2019年4月1日～2021年3月31日

【継続】2019(平成31)年 4月1日	岡山市文学賞運営委員として、日本語日本文学科の山根知子教授が委嘱される。委嘱期間：2019年4月1日～2021年3月31日
【継続】2019(令和元)年 9月13日	岡山市消費者教育推進地域協議会委員として、人間生活学科の豊田尚吾教授が委嘱。委嘱期間：2019年10月1日～2021年9月30日
【継続】2020(令和2)年 3月26日	岡山市男女共同参画専門委員会委員として、現代社会学科の濱西栄司准教授（本センター主任）が委嘱される。 委嘱期間：2020年4月1日～2022年3月31日
2020(令和2)年5月11日	岡山市北区区づくり推進事業審査会委員として、現代社会学科の濱西栄司准教授（本センター主任）が委嘱される。 委嘱期間：2020年6月1日～2022年5月31日
2020(令和2)年5月13日	岡山市都市計画審議会委員として、現代社会学科の二階堂裕子教授が委嘱される。委嘱期間：2020年7月1日～2022年6月30日
2020(令和2)年6月17日	岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員会委員として、現代社会学科の山下美紀教授（本センター長）が委嘱される。 委嘱期間：2020年7月1日～2022年6月30日
2020(令和2)年7月22日	岡山市防災会議委員として、人間生活学科の山本幾子准教授が委嘱される。委嘱期間：2020年9月1日～2022年8月31日
2020(令和2)年7月27日	岡山市国民保護協議会委員として、人間生活学科の山本幾子准教授が委嘱される。委嘱期間：2020年9月1日～2022年8月31日
2020(令和2)年8月25日	岡山市政策企画課から現代社会学科の濱西栄司准教授（本センター主任）に「令和2年度岡山市まち・ひと・しごと創生市民会議」への出席依頼。
2020(令和2)年11月9日	岡山市基本政策審議会委員として、現代社会学科の山下美紀教授（本センター長）が委嘱される。 委嘱期間：2020年11月15日～2022年11月14日
2020(令和2)年10月29日	岡山市が実施する「大学生のためのキャリア形成応援事業」において、本学と共催実施した「学生のためのワーク・ライフ・バランス講座」コーディネーターを人間生活学科の豊田尚吾教授が担当。
2020(令和2)年12月17日	第2回岡山市男女共同参画専門委員会に現代社会学科の濱西栄司准教授（本センター主任）が出席。
2021(令和3)年2月10日	第3回岡山市男女共同参画専門委員会に現代社会学科の濱西栄司准教授（本センター主任）が出席。
2021(令和3)年3月6日	岡山市男女共同参画社会推進センター主催の一般市民向け人材育成講座講師として現代社会学科の濱西栄司准教授（本センター主任）に派遣依頼。

6) 岡山市との連携活動実績（その2：地域連携・SDGs推進センター直轄）

年 月 日	内 容
2019(令和2)年 10月～継続中	岡山市とサイカパーキング株式会社と本学の産官学三者連携活動「ももちゃり MAP 制作プロジェクト」【詳細は活動報告に掲載】
2020(令和2)年6月8・22日	第1・2回「ももちゃり MAP 制作プロジェクト」会議 対 象 者：参加者全員 実施方法：オンライン

2020(令和2)年7月28日	第3回「ももちゃり MAP 制作プロジェクト」会議 対 象 者：ペルソナ「観光客」チーム 実施方法：オンライン
2020(令和2)年8月4・24日	第4・5回「ももちゃり MAP 制作プロジェクト」会議 対 象 者：ペルソナ「大学生」チーム 実施方法：オンライン
2020(令和2)年8月25日	第6回「ももちゃり MAP 制作プロジェクト」会議 対 象 者：ペルソナ「観光客」チーム 実施方法：オンライン
2020(令和2)年9月29日	第7回「ももちゃり MAP 制作プロジェクト」会議 対 象 者：参加者全員 実施方法：オンライン
2020(令和2)年11月3日	中間報告会「ももちゃり MAP 制作プロジェクト」 対 象 者：参加者全員+当日参加者希望者+プロジェクト関係者(岡山市、サイカパーキング、地域連携・SDGs 推進センター、各担当) 実施場所：岡山市役所 2 階
2021(令和3)年1月16・17日	第8・9回「ももちゃり MAP 制作プロジェクト」会議 対 象 者：参加者全員 実施場所：岡山市役所
2021(令和3)年1月30・31日	第10・11回「ももちゃり MAP 制作プロジェクト」会議 対 象 者：参加者全員 実施場所：岡山市役所
2021(令和3)年1月～ 2021(令和3)年2月	「ももちゃり MAP」へ掲載予定の施設・店舗に交渉・取材。 ※夢二郷土美術館、岡山禁酒会館、後樂園、岡山城、廣榮堂他約 20 施設・店舗

2020(令和2)年10月26日	市担当と岡山文化芸術創造劇場開館準備室担当が来学。
2020(令和2)年10月28日	岡山市の新岡山芸術創造劇場プレ事業ハレルワークショップ「めぐりあるくストーリーと」の第1弾「写真からつくる編」の募集について、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年11月12日 ～11月13日	岡山市の外郭団体 公益財団法人岡山文化芸術創造劇場開館準備室が企画するワークショップ「めぐりあるくストーリーと」に学生参加。 【詳細は活動報告に掲載】
2021(令和3)年2月4日	岡山市の新岡山芸術創造劇場プレ事業ハレルワークショップ「めぐりあるくストーリーと」の第2弾「物語をつくる編」の募集について、学生に manaba folio で紹介。

2020(令和2)年 8月20・21・28日、9月2・11 日、10月5日、10月9日受 け渡し	岡山市を介して第一生命保険（株）西営業所岡山支店から寄付の使途について複数回の打ち合わせ。「清心子育てプロジェクト」への支援として、活動で必要な育児用品、子どものための遊具、感染防止対策用品など寄贈。贈呈式実施。【詳細は活動報告に掲載】
---	--

2019(令和元)年8月	岡山市政策局担当より Society5.0 勉強会の趣旨や内容、協力についての相談。Society5.0 関連研究シーズ調べを学内で実施。
2020(令和2)年2月23日	岡山市主催「桃太郎のまち岡山 Society5.0 社会実装研究会」第1回研究会に本センター主任と産官学センター担当が出席。
2020(令和2)年6月11日	第2回研究会において現代社会学科の濱西栄司准教授（本センター主任）が依頼報告【詳細は活動報告に掲載】

7) 岡山市との連携活動実績（その3：担当教員を介した連携活動）

年 月 日	内 容
2020(令和2)年5月	岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進事業」実施可否について市と検討。中止決定。
2020(令和2)年7月6日 ～12月21日	岡山市文化振興課、下電観光バス株式会社、日本語日本文学科（山根知子研究室）の連携活動「ツボジョーワールド探検隊」【詳細は活動報告に掲載】
2020(令和2)年7月20日 ～2021(令和3)年1月25日	岡山市産業観光局農林水産部農林水産課、人間生活学科（豊田尚吾研究室）の連携活動「岡山市 地産地消マルシェ 2020」【詳細は活動報告に掲載】
2020(令和2)年11月21日 ～2021(令和3)年2月28日	岡山市観光部プロモーション・MICE 推進課、NPO 法人みんなの集落研究所、人間生活学科（葉口英子研究室）の連携活動「日本遺産『桃太郎伝説』をテーマにした体験型おもてなしプログラム」【詳細は活動報告に掲載】
2020(令和2)年11月中旬 ～継続中	岡山商工会議所、人間生活学科（葉口英子研究室）の連携活動「『フルーツパフェの街おかやま』のプロモーション活動」【詳細は活動報告に掲載】

3. その他の連携活動実績一覧

年 月 日	内 容
2020(令和2)年8月27日 ～2021(令和3)年2月28日	公益財団法人岡山県産業振興財団経営支援部創業・販路開拓支援課、マルクラ食品有限会社、食品栄養学科（吉金優研究室）の研究開発支援「備中流！産業による地域おこし支援事業」
2020(令和2)年9月7日 ～2021(令和3)年2月28日	岡山県 環境文化部循環型社会推進課資源循環推進班、赤磐市立城南小学校、食品栄養学科（吉金優研究室）の連携活動「令和2年度地域を学んでのこさずたべよう事業」【詳細は活動報告に掲載】

4. 各連携協定に基づく活動に関する報告（協定締結順）

1) NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山との包括連携協定に基づく活動

2020 年度「国際塾」の報告

児童学科／国際交流主任 福原 史子
(NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山理事)

本年、25 周年を迎えた「こくさいこどもフォーラム岡山（INTERKIDS、会長／秋政孝一）」は、岡山県下の子どもたちが日本人としてのアイデンティティーと国際感覚を兼ね備え、グローバル社会に適応できる人材に育つこと目指している。活動の一つとして、高校生が国際問題や文化などを学び、幅広い視野や考える力を身に付けることを目的に「国際塾」を開いており、昨年までに約 450 名の修了生を輩出し、本年度も 17 期生 50 名の入塾を得た。カリキュラムは表 1 の通りである。例年、入塾式と卒塾式を含む複数回（2019 年度は全 11 回のうち 7 回）を本学地域連携・SDGs 推進センターのご協力のもと、ヨゼフホール 2200JB 教室及びラウンジにて実施してきたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大によって、Zoom を活用してのオンライン開催とした。

本学関連の講座として、まず、第 4 回に清心中学校・清心女子高等学校の三宅聖子校長が、「国連公認 NGO に参加して私が体験したこと～現場から生まれた SDGs・2013 年に見たもの～」のテーマでご経験を話してくださった。SDGs がどのように誕生したのか、その背景がよく分かるとともに、三宅先生のシスターとしての行動力が印象的であった。第 7 回は福原が担当させていただいた(図 1)。モンテッソーリ教育や英語教育の話題を通して、高校生が主体的な学びについて考え、それぞれの考えを共有しながら深めていくこと目指した。さらに、第 9 回は児童学科日下紀子准教授にご講義いただいた(図 2)。「アサーション」を手掛かりに、自分も相手も傷つかない、人間関係を大切にしたいコミュニケーションの方法について丁寧に分かりやすく話してくださった。

回を重ねるにつれて高校生もオンラインでの受講に慣れ、積極的に意見を述べたり質問をしたりできるようになった。講師も Zoom のブレイクアウト機能を活用して小グループでの生徒間の意見交換や交流が促進されるよう努めた。オンライン開催により、岡山市外の高校生の参加や国内外からのコメントがあり、国際塾の新たな可能性も見えてきた。一方で、他大学の会場ではあるが、卒塾式を対面で挙行することができ、画面越しで見知っていた他校の生徒と楽しそうに語り合う様子がみられた。その感動は大きく、顔と顔を合わせてコミュニケーションできる有難さを痛感した。

包括連携協定により、本学を会場として実施される講座に関しては、本学の学生・教職員が無料で聴講できることになっている。将来を担う高校生への講座ということで、多忙な方々が快く講師を引き受けてくださる貴重な機会に、本学関係者が多く参加し、有意義な学びができることを期待している。今後は、ポストコロナの連携の在り方も探っていきたい。

表1 2020年度第17期「国際塾」のカリキュラム

NO	期日	テーマ	塾生 参加者	その他 参加者
第1回	6/7 (日)	入塾式～21世紀を生きる君たちへ～ 杉山慎策 国際塾塾長 中国学園大学・中国短期大学副学長	(人) 43	(人) 9
第2回	6/14 (日)	岡山大学在学中に創業した音楽スタートアップ企業の挑戦 西尾周一郎 (株)クレオファーガ 代表取締役社長	40	14
第3回	7/12 (日)	ニュージーランドの魅力を探る～民主主義国家のあるべき姿とは～ 小川正人 環太平洋大学国際・教養教育センター教授 / センター長	37	10
第4回	7/19 (日)	国連公認 NGO に参加して私が体験したこと ～現場から生まれた SDG s・2013 年に見たもの～ 三宅聖子 清心中学校・清心女子高等学校校長	39	10
第5回	7/26 (日)	国際人となるために、今、身につけておきたいこと 浜家弘巳 前国際塾塾長	37	13
第6回	8/2 (日)	最先端科学とアートの出会いから～ミュオグラフィーアートとは？ 角谷賢二 元日立マクセル取締役・関西大学客員教授	31	12
第7回	8/9 (日)	世界への扉を開く鍵は何か～五感？英語？探究心？～ 福原史子 ノートルダム清心女子大学人間生活学部 准教授	21	9
第8回	8/16 (日)	“押忍！考え・行動する人を育てたい！” ～中学校現場 18 年+α の経験から～ 竹島 潤 岡山大学教育学部附属中学校教諭	25	12
第9回	9/22 (祝)	上手に聴いて、自分の気持ちをきちんと伝えよう ～コミュニケーションにおける自己表現～ 日下紀子 ノートルダム清心女子大学人間生活学部 准教授	28	9
第10回	10/18 (日)	課題発表～2040年の岡山と私～ 卒塾式 杉山慎策 国際塾塾長 中国学園大学・中国短期大学 副学長	30	27

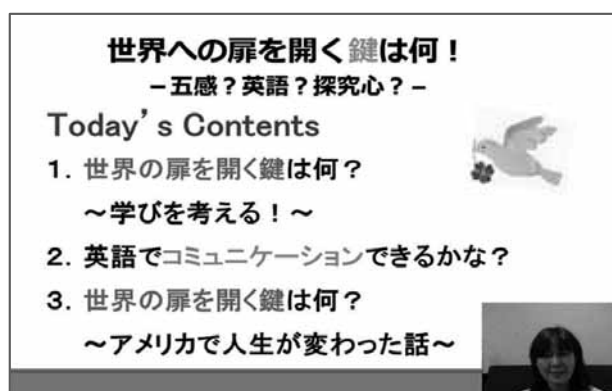


図1 第7回オンライン講座（8月9日）

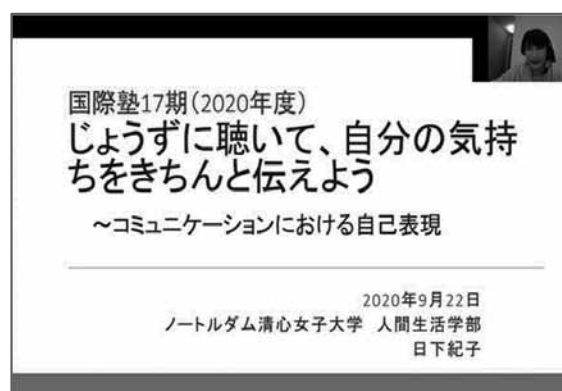


図2 第9回オンライン講座（9月22日）

2) JA 岡山との包括連携協定に基づく活動

「JA 岡山 未来の米食育プロジェクト」活動報告

食品栄養学科 小山 洋子

1. 活動の目的と概要

2020年9月より、岡山市農業協同組合と協同して、ブランド米の商品開発を目指す「未来の米食育プロジェクト」の推進を図る活動をしている。岡山市農業協同組合（以後「JA 岡山」とする）とは2018年度から包括的連携協定を結んでおり、今回の活動はその一環にあたる。

米は基幹的食糧でありながら消費量は減退し続けており、このままでは生産体制のみならず、日本食文化や食料自給率を維持することすら困難な状況に陥ることは必至である。また、ライフスタイルの変化や食の欧米化などから、若い世代での「米離れ」も懸念される。このような背景を踏まえ、本プロジェクトでは、若い世代に米の価値を見直してもらい、減退し続けている米の消費量に歯止めをかけること、「地産地消」の観点から地元産の米の消費拡大につなげることを目的に開始された。現在、指導教員（食品栄養学科 小山）のゼミ生9名を中心に活動に取り組んでいる。具体的には、業務用として評価の高い地元産の米（アケボノ）を中心に家庭用としても通用するブレンド米を開発するために、ブレンド比率から商品のネーミング、パッケージデザイン、レシピの検討などを行い、2021年度の新米から商品化し販売する予定である。

2. 活動実績

(1) JA 岡山、全農岡山との協働

2020年9月25日に、JA 岡山職員2名、全農岡山職員2名と小山が出席のもと打合せを行った。そこで企画、製造、販売などの各段階に、学生が主体的に関わり幅広い用途で使えるブレンド米の開発を行うことを基本方針とした。まずは学生が米の生産、販売の流通過程や販売戦略を知ることから始め、その後具体的な米の品種選定、ブレンド割合の検討、パッケージデザインやネーミングの検討に取り掛かることとなった。取り組み活動に関する日程は表1の通りである。

表1 JA 岡山 未来の米食育プロジェクト日程

期日	内 容	関係者
2020年10月25日	・ 担当者間での打ち合わせ、今後の予定について協議	JA 岡山職員、 JA 全農岡山職員
	・ 米についての基礎知識や製造、販売など現状把握を行った後に、商品開発の検討を行う方針で合意	
	・ 基礎知識として生産側・製造側・販売側の3つの側面から説明を受ける。その後、学生主体となり、米の品種選定やブレンド配合の検討、販売必要な包装資材用の検討を進める。	

2020年11月5日	第1回「お米について知ろう」(生産者側)	JA 岡山職員
2020年12月2日	第2回「製造から商品までの課程を知ろう」(製造者側)	(株)岡山パールライス職員、JA 岡山職員
2021年1月14日	第3回「バイヤーの立場からの商品づくり」(販売側)	岡山天満屋食品販売部長、JA 岡山職員、(株)岡山パールライス職員
(2021年2月～)	米の選定、ブレンド割合など検討開始	

(2) 第1回「お米について知ろう」

2020年11月5日に第1回「お米について知ろう」という内容で、生産側の立場であるJA岡山職員より生産から流通に至る過程について説明があった。その後、実際に玄米を見て米粒の大きさや色、見分け方などを体験した。ほとんどの学生は普段玄米を見る機会がないため、品種によって大きさや色に違いがあることに興味を示していた(写真①)。

(3) 第2回「製造から商品までの過程を知ろう」

2020年12月2日に、岡山パールライス株式会社で工場見学を行った。ここではJA岡山が生産農家から仕入れて販売した米が商品に至る製造工程や、包装資材について岡山パールライス職員から説明を受けた(写真②)。その後岡山県産の米5種類を試食し、色、香り、食感など気づいたことや感じたことについてディスカッションを行い、米の品種による特徴などへの理解を深めた。また、製造者の立場で考えるマーケティング戦略について説明を受け、「売れる商品を作る」難しさや責任の重さを再認識していた。

12月下旬から翌年1月中旬にかけては、スーパーなどで販売されているお米の包装状態やパッケージデザイン、価格などの調査、各社コンビニのおにぎりやパックごはんを食べ比べてみるなど、学生個人個人で情報収集に取り組んだ。



写真① 【1回目】数種類の玄米の比較



写真② 【2回目】パールライス工場見学

(4) 第3回「バイヤーの立場からの商品づくり」

2021年1月14日に、岡山天満屋で食品販売リーダーをしている方から、販売におけるノウハウや考慮すべき事項など、消費者の目線に立ったマーケティング戦略について説明を受けた。この企画に取

り組み始めた当初、「若い世代が食べたいと思うブレンド米を開発する」という漠然とした考えで検討を始めたが、今回の説明を受けて「製造側」と「消費者側」の両方の目線に立つことの重要性に改めて気づくことができたようである。また新しいものを企画・販売するためには、製造にかかる人や機器、コスト、販売方法（ネット、通販、店頭販売等）など、多くの点を考慮しなければならない難しさも痛感していた。

3. 今後の活動予定

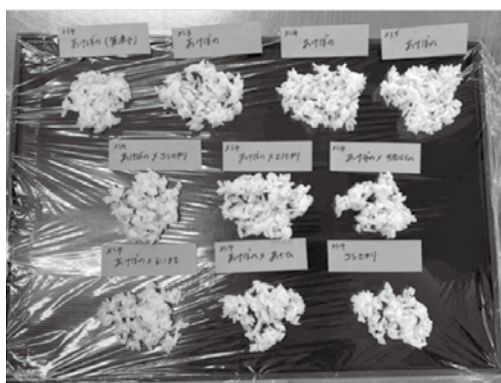
2021年2月から本学調理室にて岡山県産の米（6種類）を用いて試作を開始している（写真③、④、⑤）。米の炊飯に関わる条件（水分量、炊飯時間、蒸らし時間など）は先行研究を参考としている。今後はJA岡山より提示されている「岡山県南部で生産量が多いアケボノを中心としたブレンド精米」という条件の踏まえた上で、食味テストや粘度・硬さの計測なども行い、好ましいブレンド比率を検討し商品化に繋げていく予定である。



写真③ 試作として使用する
岡山県産の米（6種類）



写真④ 炊飯準備



写真⑤ 炊飯後のご飯を比較

3) 岡山市との包括連携協定に基づく活動

ももちゃり MAP 制作プロジェクト：産官学連携（センター直轄）

地域連携・SDGs 推進センター主任／現代社会学科 濱西 栄司

ももちゃり MAP 制作プロジェクトは、岡山市（交通政策課）とサイカパーキング株式会社、および本学（地域連携・SDGs 推進センター）の産官学連携プロジェクトである。2019 年 10 月より市市民共同企画総務課を介して事前協議が始まり、同年 12 月から学生有志 11 名（1～3 年生）で開始された。感染症のために、一時、活動休止せざるを得なかった。2020 年 6 月よりオンラインで再開され、11 月には中間報告会が実施された（新聞記事）。

その後、店舗取材へ進み、目下、デザイン等の最終作業に入っているところである。具体的な作業過程については、以下の参加学生からの報告をご覧ください。

ももちゃり MAP 制作プロジェクト 活動報告

現代社会学科 3 年 黒田 葉古

2019 年 12 月、ももちゃり MAP 制作プロジェクトが始動した。前半の活動内容は、企画案の制作やペルソナの設定、精査などである（図 1）。「大学生」と「観光客」をペルソナとする 2 チームにそれぞれ分かれての活動であったが、両チームとも真面目で積極的な学生ばかりで、活動に困難が生じることはほとんど無かった。筆者は「大学生」をペルソナとするチームに所属し、大学生を対象に総合グラウンドや大学内で自転車に関するインタビューを行った。インタビューデータを基にペルソナを設定していく過程には、1 つの物語を作っているような楽しさがあり、メンバーの仲を深める機会にもなったと思う。しかし、新型コロナウイルスの影響で活動は一旦中断され、学生は約 3 ヶ月間の活動自粛を迫られたのである。先行きが不安な状況ではあったが、2020 年 5 月、遠隔会議での活動が再開され、学生は再び MAP 制作に取り組むことが出来た。

遠隔会議での MAP 制作は、思いのほか円滑に進められた。オンライン授業や就職活動で多忙な中でも学年の枠を超えて協力し合うことは、決して容易ではない。しかしお互いの忙しさを全員が理解していたため、欠席者には進捗状況の共有を行うなどの対応をとりながら、常に協力し合うことを意識していた。11 月には大学生や岡山市、サイカパーキング株式会社の方々に向けての中間報告会（図 2）が開催されたが、学生は対面での打ち合わせ無しで当日を迎えている。中間報告会までの間、隙間時間を見つければ学生のための遠隔会議を開催し、綿密に打ち合わせを行っていたのである。

また、遠隔会議ということで MAP 制作には Google スライドや Google フォトなどが用いられた。最初から使いこなせたとは言えないが、MAP 制作を経るうちに徐々に使い慣れ、今では学生

の誰もが使いこなせるように成長している。遠隔会議だからこそその学びを得られたのは、非常に
有難いことであったと思う。しかしながら、困難を極める作業があったことも事実である。飲食店・
雑貨店への取材だ。取材の目的は、MAP への掲載許可を得ること、お店の営業情報を得ること、
内装や商品の写真を提供していただくこと、主にこの3つである。実際にお店に伺ったり、お忙
しい場合には電話やメールを用いたりしたが、学生にとっては苦戦続きの取材であった。筆者は
飲食店3店舗から掲載を断られ、雑貨店2店舗とは一切連絡がつかず、心が折れそうな瞬間が何
度もあったのだ。他の学生も同じような状況を強いられ、自分たちの思い通りにはいかない厳し
さを強く痛感したと思う。社会勉強として、これ以上ない貴重な経験となった。

プロジェクトの進行は予定より大幅に遅れることとなったが、それでも学生らは毎回の会議に
楽しんで参加し、MAP の完成を目指して全員が尽力した。自分たちが作成した MAP を機に、よ
り多くの方がももちゃりを利用してくれることを願っている。



図1 活動の様子



図2 中間報告会の様子

ももちゃりでまち巡りを



写真映えスポット おしゃれカフェ 若者目線で提案

清心女子大生 マップ製作に協力
ノートルダム清心女子大岡山校区伊福町の学生有志が、市のコ
ミュニティサイクル「ももちゃり」の利用者アプリを自指す取り組み
に協力している。まち巡りを促すオリジナルマップの製作で、人気の
カフェやSNS（会員制交流サイト）映える観光スポットを提案す
るなど、若者の視点からアイデアを提供している。（中浜夕里）

3日、ほっとプラザ大
供（同大供）で中間報告
会が開かれた。同大の学
生10人や市職員、ももち
やりの運営に当たるサイ
カパーキング（東京の担
当者23人が参加した）
学生は、若者向けとし
て市内のカフェや雑貨店
などおしゃれな店舗約50
カ所の掲載を提案。観光
客向けには、岡山空襲を
くぐり抜けた木造建築の
岡山禁酒会館（同丸の内）
や、レトロな車両の走る
路面電車といった「写真
映え」を狙えるスポット
マップは年度内に完成
の予定。ももちゃりの貸
し出し・返却場所（ポー
ト）や観光案内所で配る。
する学生たち（右側）

を挙げ、「写真映えは、
老若男女問わず関心が高
い」とアピールした。
マップ作りは昨年12月
にスタートした。まちを
巡る楽しさを紹介し、も
もちゃりの課題となつて
いる通勤利用者の少ない
日中の貸し出し増加につ

山陽新聞（2020年11月5日）

市・岡山芸術創造劇場準備室との連携（センター直轄）

地域連携・SDGs 推進センター主任／現代社会学科 濱西 栄司

2020 年 10 月、岡山市担当と岡山芸術創造劇場準備室担当が来学され、主催ワークショップについて協力要請があった。事業の趣旨や実施体制について十分に確認したうえで、本センターより学内 SNS を用いて広報を行った。その際、以下のイベントチラシと感染症対策資料も添付した。本学からの参加者は 2 名である。2021 年 3 月には第 2 回が予定されている。

準備室は劇場予定地地域全体の活性化を考えておられ、すでに地域住民の話し合いの場を設定されるなど具体的な事業を進めておられる。そこに本学学生が関わることは非常に有意義なことであり、実際準備室もそのことを念願されていた。芸術やアートに関心のある学生も多いので、今後さらに連携を深めていきたい。具体的な活動については、以下の参加学生からの報告をご覧ください。



岡山芸術創造劇場ワークショップ「めぐるあるくストーリーと」参加報告

現代社会学科 1 年 田中 結那

私は 11 月 12・13 日に表町商店街のそばら屋さん 2 階で開催されたワークショップに参加してきました。ワークショップでは 2022 年に設立される劇場の周辺を歩き回り、お気に入りの写真を撮影し、その写真にタイトルをつけたり色や模様をつけたりして 1 つの作品にするということをメインに活動しました。

参加してみてよかったと思うことは、主に 3 つあります。

1 つ目は感染症の対策が徹底されていたことです。アルコールが受付の机の上にたくさん置か

れていて（入口の時点で3本）、一人一人に「アルコール消毒をお願いします。」と声をかけてくださったり、自宅での検温と会場での検温をお願いされたりしました。

2つ目はスタッフの方の充実したフォローとサポートです。まず、スタッフの方の人数ですが、12人以上は確実にいらっしゃいました。会場の少し緊張した雰囲気をにこにこ笑顔で和ましてくださる方やワークショップの記録をしている方や写真を撮影している方や岡山の街に詳しい方やただただ見守ってくださる方や（居眠りをしていた方もいましたが）それぞれの役割を発揮してくださっていたため、参加者同士のトラブルもなく、安全に街歩きや意見交換をすることができました。また、今回中心となってワークショップを進めてくださった有門さんは自発的に発表できずにいる人に「〇〇さんはこの絵はどのような風に見える？」とフランクに話しかけてくださいました。また、何も思い浮かばない人に対して「もし、何も感じないならそれはそれで良いんだよ。」と言ってくださったり、理解不可能な回答に対しては若干引きながらも最後には場を和ませてくださったりと、どんな意見に対しても肯定的な姿勢だったのですごく居心地がよかったです。

3つ目は他人の考えていることを絵や写真や音楽などの芸術を通して知ることができたということです。ワークショップには20代～60代までで、ご夫婦で参加している方、すごく奇抜なファッションの方、演劇関係の方、大学生の方など様々な参加者の方がいらっしゃいました。皆さん最初は緊張でなんとなくソワソワしていましたが、有門さんがリーダーシップを発揮してくださったのもあり、アイスブレイクの開始30分後には参加者同士で楽しそうに雑談をしている姿が見受けられました。私はオンライン授業漬けの生活で人と会う機会が少ない中で直接人と会い、五感を使って人の気持ちや考えを聴けて大変良い刺激になりました。

しかし、できればもう少し改善しておいて欲しいことも4つほどありました。

1つ目は仲良くなる方法が少し強引すぎたことです。居住地や血液型を皆の前で言わないといけないのは少し戸惑いました。しかし、お互いのことを知り、そこから話が広がって仲良くなれたら、結果的にはよかったのかなとも思いました。

2つ目はスタッフの方同士でなんとなくピリピリした場面がたまにあり、少し怖かったです。しかし、リーダーの有門さんの居住地が岡山から離れたところにあり、岡山に来られたのが1～2日前とおっしゃっていたことから、リハーサルをする機会が十分に取れず、スタッフの方も緊張されていたのかなと思っています。

3つ目はトイレの数が少なく、休憩時にトイレ付近が少し混雑してしまったことです。

4つ目は終わりがけで一人ずつその日の感想を言う時間があったことです。これに関しては私も完全に油断をしていたので自業自得な感じもありますが、突然そのような事態になってかなり焦りました。結果、中途半端なことしか言えなくて悔しかったです。今後はこういう場で自分の意見や感想をはっきりと伝えられるようにしていきたいです。

気になるところも少しだけありましたが、二日間という短期間で楽しみながら頭も体も使うことができたのでとても良い経験になりました。1月のワークショップも是非参加したいと思います。

市・第一生命保険（株）との寄付連携（センター直轄）

地域連携・SDGs 推進センター主任／現代社会学科 濱西 栄司

2020 年 8 月に岡山市岡山市市民協働企画総務課より、本学近隣に所在する第一生命（株）西営業所からの寄付についてセンターに相談があった。同課を介して、先方と趣旨等を確認し、また本学の寄付制度や活動状況についてもご説明した。諸々の検討の結果、「清心子育てプロジェクト」への寄付とすることが定まった。

9 月 2 日には本学生涯学習センター応接室において、同社岡山西営業所オフィス長、課長代理、岡山市市民協働企画総務課主査、清心子育てプロジェクト 2020 年担当の伊藤美保子准教授、及びセンター主任、事務職員が、寄付物品や贈呈式等について最終的な打ち合わせを行った。贈呈式には、上述メンバーに加え、第一生命岡山支店長も出席された（本センター長も同席）。贈呈式の詳細については次ページをご覧ください。

2020 年度「清心子育てプロジェクト」への寄付に関する報告

清心子育てプロジェクト 副委員長 児童学科 伊藤 美保子

2020 年度には、第一生命保険（株）岡山支店殿から、本学の児童学科中心に実施されている「清心子育てプロジェクト」に対する支援として、ご寄付のお申し出をいただきました。

10 月 9 日に贈呈式が行われ、今回のご寄付に至る経緯などのご紹介の後、鈴木慎一支社長（写真右端）より第一生命保険株式会社岡山支社による地域貢献活動や、岡山に所縁のある同社創業者、矢野恒太氏のご紹介などをいただき、和やかな雰囲気で行われました。そして鈴木支社長から、寄贈品を手渡ししていただきました。

今回ご寄付頂いた品物は、「清心子育てプロジェクト」の活動に必要な育児用品、子どものための遊具、感染防止対策用品など、あらかじめこちらからの希望を第一生命保険株式会社 岡山西営業オフィスの矢渡様にお伝えして、わざわざご用意いただきました。また、第一生命保険株式会社がオフィシャルスポンサーをされている「東京ディズニーリゾート」のキャラクターグッズも、子供たちへのプレゼント用として沢山いただきました。

最後に、参加者の記念写真を撮り、贈呈式は無事終了しました。



贈呈式の様子



左：伊藤美保子准教授 右：鈴木慎一支社長

頂いた品々は、今後の清心子育てプロジェクトで大切に活用させていただきます。感染対策など随時検討を進めながら、これからも子育て支援に取り組んでいきたいと考えています。

「ツボジョーワールド探検隊」―坪田譲治ゆかりの地巡りツアーの実施―

日本語日本文学科 山根 知子

「ツボジョー」とは、岡山での体験とその風土を生かした作品を次々と生み岡山を愛し続けた岡山市出身の小説家・児童文学作家「坪田譲治」(1890 - 1982)の愛称です。日本の児童文学界を発展させ、岡山市の名誉市民となった譲治は、「坪田譲治文学賞」(岡山市制定)によって譲治文学の特色である「大人も子どもも共有できる世界を描いた文学」を生み出す後進作家を今も育て続けているといえます。

2017年度に始まった日本語日本文科学学生有志による「ツボジョーワールド探検隊」は、2020年度の活動で4年目を迎えました。これまでの3年間は、岡山市「大学生まちづくりチャレンジ事業」への参加とともにスタートし、後続の「学生イノベーションチャレンジ推進事業」への参加を引き続き行いながら活動してきましたが、2020年度は応募を予定していた岡山市の同事業がコロナ禍で中止となったことにより、独自の活動となりました。しかも、2020年3月3日に坪田譲治は生誕130年を迎えたことで、2019年度に続いて2020年度もメモリアルイヤーとして協働を予定していた各団体・各館の行事は、ほとんどが中止となったなかでの活動でした。

よって、「ツボジョーワールド探検隊」のメンバーは、例年の活動量を縮小し、ほぼオンラインでの作業や準備を余儀なくされましたが、そうしたなかでも新たな「坪田譲治紹介冊子」を執筆作成することと、毎年新たな挑戦的活動をするという目標を果たすことができました。その新たな挑戦的活動とは、10月18日(日)に企画した一日ツアー「ツボジョーワールドを楽しもう——坪田譲治 人と文学ゆかりの地巡り」の実施です。

この企画は、下電観光バス株式会社に勤める日本語日本文学科卒業生と、前年度中にすでにコラボ企画として計画しており、新たな学生メンバーは実施準備を進めていました。そのツアーは、コロナ禍で細心の注意を払い、最善の実施計画を模索しながら、実現に至りました。

今年度のメンバーは2年生3名で、ツアー時のみ1年生1名が加わりました。その2年生は、前年の1年生での授業で坪田譲治文学を学んだ経験から、「譲治の作品は、子どもたちがつらい境遇にある話が多いが、それでも子供たちが日々の生活の中で楽しく生きてい姿から力をもらえる」と、現在のコロナ状況下だからこそ、譲治文学を伝えたいという意志を示してくれました。またメンバーのうち2名は岡山出身ですが、遠く宮城県から本学に入学した学生は、「図書サービスの充実や、岡山独自の文学賞を設けるなど、文学との関わりの深い点に興味を持って、岡山に来ようと決めました。大学に入って坪田譲治のことを学び、岡山と文学の関わりについてもっと知りたいという思いがありました」という経緯から活動に加わった思いを語っており、ツアーによって岡山の作品の舞台を巡る新鮮な期待を寄せていました。

年度最初の活動となる冊子作成について、学生たちは「実際ツアーで使用する時にも、見やすくわかりやすいような冊子が作成できれば」という思いで、構成や内容を考えました。

また、学生たちは、「坪田譲治の文学をまだ知らない人や県外の人にも魅力あるものとして伝えたい」という願いのもと、イラスト担当者は「読んだ人が自身のふるさとを思い起こして、懐かしくなるような冊子にしたかったので、落ち着く色や温かみのある色を使って冊子のイラストを描きたい」という希望をもち、文章執筆担当者は「文章にはルビをふったり、善太と三平の会話形式にしたりして、様々な年齢層や出身の方々にわかりやすく読んでいただけるように意識し、ただ堅苦しく事実を並べるだけではなく、おもしろいエピソードや作品の引用なども交えて、譲治の人柄に親しめるよう工夫したい」というねらいをもって作成を進め、『ようこそ！ ぶどうの村へ』という題名で、冊子は完成に至りました。

【協働した団体】

下電観光バス株式会社

くぼ農園

大手饅頭伊部屋

岡山市文化振興課

岡山市立石井小学校

坪田譲治研究会

古写真 DB委員会



坪田譲治紹介冊子
『ようこそ！ ぶどうの村へ』

ツアーが近づくなかでは、案内の準備として、バス内や現地で語るシナリオ作成を進めながら学生が工夫した点としては、「現地の様子を想定して効果的な案内の表現を選んだ」点や、「ツアーでは親しみを持っていただけるように、ただ知識を羅列して紹介するだけではなく、自分の等身大の感想も交えて話すことを意識し、参加者のみなさんと〈一緒に発見する〉というイメージを大事にした」という点に力を入れました。こうして、学生たちは、「ゆかりの地を巡ることで譲治が暮らしていた時代の岡山を感じ岡山の魅力を知ることができるようなツアーにしたい」という思いを実現させることができました。

こうして、当日の37名の参加者からは、「バスのなかでの学生さんの作品朗読が良かった」「現地の風景と重なり坪田文学の世界を満喫できました」などといった感想がいただきました。

実際学生たちは、バス内で最後に参加者に感謝の言葉を述べる際に、2年生の3人はそれぞれ、「ツ

アーで巡った中には譲治が生きた当時と変わってしまった場所もありましたが、譲治がふるさとの記憶を小説に書いて残したことで今の私たちにも当時の様子を知ることができました。譲治がふるさとの様子を後世に伝えたように、私もふるさとに何かできるだろうかと考えました」「日常的に自転車で通っていた場所が譲治ゆかりの地であったことは、この活動をするまで知りませんでした。いつもあたりまえに過ごしていて、なんでも知っているような土地にも、新たな発見があることに驚き、それがとても楽しく感じられました」「譲治が生きていた頃から変わらないものも全く残っていなかったり全然違うものになっていたりしたものもありましたが、それらを全部含めてゆかりの地を巡ってみてよかったと感じました。自分の故郷である岡山の知らなかったところを知ることができ、さらに岡山が好きになりました」と述べています。



島田での譲治エピソードの紹介



島田から天満に向かう
バスでの解説



譲治の小説「風の中の子供」の
登場人物に扮して

また、冊子については、ツアーでの使用以外にも、岡山県内のすべての図書館と近隣県の図書館にも寄贈し、そのことは次のように『山陽新聞』に掲載されました。



山陽新聞
(2020年12月6日)



岡山市立石井小学校にて
2020年12月21日

さらに、この冊子を譲治の母校である石井小学校にも寄贈することとし、全校児童約450人全員にわたるようにお渡しし、放送朝会で児童代表の6年生に渡す贈呈式を行いました。

学生たちは、冊子を譲治の出身校の児童へ手渡し想いを深くした点について、「自分たちにゆかりのある坪田譲治という作家を通して、地元である岡山についてもっと知って好きになってほしいと思います」「石井小学校の生徒の皆さんは、譲治をさらに身近に感じられる大きなチャンスをもっています。このチャンスをいかして、ぜひ、母校や岡山という土地に誇りを持っていただければと思います。そ

して、この冊子が、その一助になれば幸いです」「皆さんの通う石井小学校の周辺には幼少期の譲治が暮らした場所があります。ぜひこの冊子をもって実際にその場所へ足を運んでみて、変っていないところを実感し、変わってしまったところは想像力を広げて味わってほしいです」と、譲治の岡山愛を次世代の心豊かな人生のためにつなげたい思いを、自分たちなりに語ってくれました。

最後に、今年の活動における活動日程は以下の通りでした。コロナ禍にも負けず頑張った学生たちの活動の様子をお伝えできれば幸いです。

2020 年度「ツボジョーワールド探検隊」活動日程

月	日	活動名	場所	活動内容
7	6	ツボジョーワールド探検隊4期生結成		・本年度の活動メンバー確定
	13	ミーティング	zoom	・本年度の活動方針について話し合い
	27	3期生との合同ミーティング	zoom	・引き継ぎ、役割分担
8	8	ミーティング	zoom	・冊子作成について話し合い
	15	ミーティング	zoom	・冊子作成について話し合い
	22	ミーティング	zoom	・冊子作成について話し合い
	26	ミーティング・取材	本学	・冊子作成について話し合い ・oni ビジョンから取材を受ける
	上旬	※随時、メール等で冊子原稿のやりとりを行う（～9月下旬）		
9	11	ミーティング	zoom	・冊子作成について話し合い
	26	ミーティング	zoom	・ツアーシナリオについて話し合い
	下旬	※随時、メール等でツアーシナリオのやりとりを行う（～10月中旬）		
10	7	冊子原稿完成、納品		・坪田譲治紹介冊子「ようこそ！ぶどうの村へー譲治がくれたふるさとの記憶」原稿完成、納品（協力：村中李衣教授・近藤友子准教授）
	10	ツアーの下見	岡山駅周辺	・10月18日のツアーに向けて石井小学校・島田地区の下見
	15	冊子発行		・坪田譲治紹介冊子「ようこそ！ぶどうの村へー譲治がくれたふるさとの記憶」発行
	18	「ツボジョーワールドを楽しもう☆坪田譲治人と文学ゆかりの地めぐり」	岡山 金川 天満	・坪田譲治ゆかりの地である岡山・金川・天満をめぐるツアーを開催。 （協働相手：下電観光バス株式会社 協力：宮嶋泰明氏・大手饅頭伊部屋）
11	10	図書館等への冊子送付作業・取材	本学	・郵送にて寄贈のお願い ・山陽新聞から取材を受ける
	28	勧誘チラシ作成		・来年度のメンバーを募集するチラシを作成
12	21	石井小学校へ冊子の寄贈	石井 小学校	・石井小学校へ持ち込みで冊子を寄贈

「おかやま秋の収穫祭 地産地消マルシェ 2020」活動報告

人間生活学科 豊田 尚吾

1. 概要

岡山市産業観光局農林水産部農林水産課が主催する「地産地消マルシェ 2020 (<https://www.city.okayama.jp/kankou/0000024397.html>)」に学生の有志が協力した。このイベントは2018年度、岡山市からの協力依頼が地域連携センター(当時)にあり、学内で有志を募り取り組んだ活動の継続案件である。「市民みんなで秋の収穫を祝い、岡山市の農業の魅力を発信。年に一度の農業まつり(上記WEBサイトより引用)」との目的で行われている同企画に、より多くの若者を集客したいとの意図で本学に依頼があり、2018年度から3年連続で協力することとなった。

2020年度はコロナ禍での実施となり、過去とは異なった活動を行わざるを得なかった。従来、11月初旬に岡山市内の下石井公園でマルシェイベントを行うことが恒例であったが、それは中止となった。その代わりに各店舗をマルシェ会場と位置づけ、地産食材を使った新メニューを開発して期間限定で提供しつつ、「地産地消応援メニュー」を食べて応募すると、岡山の特産品が当たるスタンプラリー&Instagramキャンペーンを加味することで店舗の回遊を促すという企画を推進することとなった。

今年度は学生の来学が制限されていたため、活動の募集は担当教員の授業での紹介など、限られた形でしか行えなかった。しかし、結果として現代社会学科3年生1名、人間生活学科3年生1名、2年生4名、1年生2名の計8名が参加することとなった。マルシェイベントが行えないという、厳しい制約下での活動であったが、学生からの提案がいくつか採用された。今年度は、パティスリースウェサロンドテ(北区問屋町)の協力のもと、本格的な新商品開発を店舗と協働で行い、TV取材も受けた。

同キャンペーンは2020年10月31日から11月29日の約1か月行われた。

2. 活動実績

①岡山市、企画運営会社(株)ビザビとの協働

2020年8月5日に2020年度第1回目の打ち合わせを行った。岡山市、企画運営会社(株)ビザビ、本学学生5名、担当教員出席のもと、2020年度の方針に関する説明を受け、実施内容について協議した。今年度は対面の打ち合わせが制限されるため、今後はLINEなどを活用して連絡を取ることが合意された。



オンラインマッチング
イベント

②オンラインマッチングイベントへの協力

2020年9月8日に岡山市内の生産者と飲食店のオンラインマッチングイベント(於: ママカリフォー

ラム)を行った。目的は例年通り、まず生産者がどのような食材を作っているのか、そしてそれにかける思いをプレゼンテーションする。そしてそれを利用する飲食店との出会いを生み出すための場として機能させることである。しかし、今回は生産者の説明をオンラインで配信し、飲食店が遠隔でそれを観覧するという形式をとった。学生はイベントの司会補助、および生産者へのインタビューを行い、それをブログ記事にするという役割を担った。

②新メニュー試食会への参加協力

9月28日から10月2日にかけて、新メニューの撮影会があり、そのうち3件で学生が試食及び取材を行った。

③新メニューお家カフェセット「Bonbons à la maison」開発

今年度、学生が最も注力したのはこの新メニュー開発である。パティスリースウェサロンドテ（北区間屋町）と協働し、スイーツ詰め合わせを制作した。第1回は9月3日、その後数回の打ち合わせ（於：店舗）を経て完成に至った。学生からは詰め合わせるスイーツの具体的内容やデザイン、素材の提案を行い、店側が試作するという方法をとった。それに加えネーミングやパッケージのデザイン、材料調達、一つ一つの商品に手書きのメッセージを加えるなど、装飾にも協力を行った。



商品開発現場

この活動に関し、岡山市政番組「おかやまもてなし調査団」の取材を受け(10月15日)、学生が1名参加し、11月1日に放送された。また山陽新聞でも「地産地消マルシェ」を報道する中でこの学生企画も大きく取り上げられた(10月25日朝刊)。

3. 成果・評価

事業報告会が2021年1月25日ZOOMを利用して行われた。今年度の活動は制約も多く、工夫を凝らしはしたものの、企画自体は苦戦したようである(詳細な売上等のデータは非公表)。しかし、来年以降の活動にもつながる多くのヒントが得られた。引き続き「地産地消マルシェ」イベントへの参加を希望している学生も多く、彼女らにとっても貴重かつ充実感を持てる学びの多い活動になった。

大学生と飲食店がコラボメニューを創作しました



ノートルダム清心女子大学生と人気の洋菓子店『Pâtisserie Souhait Salon de Thè』がコラボして、岡山市産の食材を使ったお家カフェセット「Bonbons à la maison」を創作しました。
大学生のアイデアをもとに、焼菓子を9種類詰め合わせた「Bonbons à la maison・cuit」と生菓子を7種類詰め合わせた「Bonbons à la maison・cru」の2種類の可愛いセットが誕生。大学生とシェフのこだわりがたくさん詰まっています。
地産地消マルシェ2020の期間中、「Pâtisserie Souhait Salon de Thè」の店舗にて限定販売します。是非ご賞味ください。

岡山市 HP より (<https://www.city.okayama.jp/kankou/0000024397.html>)

『桃太郎伝説』のおもてなしプログラム活動報告

人間生活学科 豊田 尚吾・葉口 英子

今年も昨年に引き続き『桃太郎伝説』のおもてなしプログラム（日本遺産『桃太郎伝説』の生まれ
たまち おかやま」推進協議会主催、「NPO 法人みんなの集落研究所」事業受託）に人間生活学科経営
経済学研究室（豊田・葉口ゼミ）の学生1年～4年生有志による総勢34名が参加し、所定の期間で3
つのプログラムを企画し、実施した。このプログラムは日本遺産として認定された「桃太郎伝説」の
ストーリーや文化財が持つ奥深さと岡山固有の資源としての魅力をより多くの人に紹介し、訪ねても
らうことを目的とする。また地域住民によるプログラムの実践や参加を通じて人材育成、地域活性を
めざしている。

①『バズらせよう #岡山鬼スタグラム in 岡山城』

このプログラムは、11月21日、22日の2日間でおこない、昨年と同様の内容のイベントをおこなった。
岡山城に来訪した観光客の方に城内での“映え写真”を撮影してもらい、Instagram（@otomomo__
gram）に投稿することできびだんごをプレゼントするというイベントで、今年はきびだんごに加え、
アカウントフォローで桃のラングドシャもプレゼントした。今回はコロナ対策として、時間を短縮し
ておこなった。

1日目は快晴に恵まれ、お城も紅葉も青空に映える絶好の撮影日和となった。両日15名の学生が鬼
のツノをつけておかやまのハッピーを身にまとい、新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら、城
内の映えスポットで来訪された方にお声がけをし、“おもてなし”の気持ちとともにイベントを盛り上
げた。2日目は曇り空で最後は小雨となり、前日同様プレゼントも所定の数を早々に終了し、無事にプ
ログラムを終えた。来客者にも“おもてなし”の気持ちが伝わったのか、お子様連れのご家族はじめ、
多くの方々が楽しんでイベントに参加してくださった。イベントの活動の様子は2020年11月21日(土)
21:54～22:00「テレビせとうち TSC ニュース」でも取り上げられた。



②『桃太郎スタンプを集めて、ご利益 UP!』

このプログラムは桃太郎伝説にちなんだスポットを、クイズに答えながらめぐるハイキングスタンプ
ラリーとして、岡山市北区一宮にある吉備津彦神社を起点に、吉備津神社まで歩きながら、主に両

神社の見どころに関わるクイズをスタッフが考え、参加者に答えてもらうことによって、桃太郎伝説について関心を持ってもらうことを目的にした。当日までにボランティアガイドの方と事前に現地で指導を受け、クイズやスタンプといった準備を綿密に行い、予行演習もして当日に備えた。その様子はRSK山陽放送イブニングニュースでも紹介された。

11月28日（土）、少し肌寒く雨がぱらついたが、イベントがスタートする13時には天気も落ち着いた。参加者は10名で老若男女、様々な方が参加してくださった。イベント途中もとても協力的で、慣れないスタッフもいる中、参加者の方々に盛り上げていただいた。吉備津彦神社様、吉備津神社様にもイベントの趣旨をご理解いただき、神社内の各スポットでのクイズもスムーズに行うことができた。最後は『桃太郎伝説×お土産マップ』でお世話になった企業の皆様からご提供いただいたお土産セットを持ち帰ってもらった。参加者の皆さんも終始笑顔で満足いただけたようだった。



③「桃太郎×お土産マップ」

コロナ禍でも桃太郎伝説に関連した地域の魅力発信として、より多くの人に桃



太郎伝説を紹介し岡山の名産品やお土産を知ってもらおうと同時に、お土産店を盛り上げるために、お土産マップ（A4三つ折り）を作成した。若者向けに可愛く緩いデザインにし簡単なマンガで桃太郎伝説を紹介した。

また女子大生視点で選んだ桃太郎や岡山にちなんだお土産を6つ厳選し紹介した。完成したのち、岡山駅構内のお土産店をはじめ、桃太郎伝説に関連した観光施設にも配布をした。RSKラジオにも出演し、マップについてアピールした。



このマップは文化庁の日本遺産ポータルサイトでも紹介された。インスタグラムとの連動もおこない投稿した。沢山の方々と岡山を一緒に盛り上げたいという気持ちと協力のもと完成することができた。今後もお土産店を取材し、Instagramを主にして情報発信を継続していく。

今回3つのプログラムを実施した学生たちから「コロナ禍での開催にあたって不安もあったが、学生同士の協力により無事に遂行でき十分な成果を収めたことに自信を持てた」、「人と交流することの楽しさを改めて体感できた」という感想が聞かれた。

最後に、NPO法人みんなの集落研究所様、岡山市産業観光局観光部プロモーション・MICE推進課様、多くの地域の皆様へ学生の活動に対するご協力とご賛同をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。



「フルーツパフェの街おかやま」活動報告

人間生活学科 葉口 英子

岡山商工会議所が実施している「フルーツパフェの街おかやま」は、市内のホテル・飲食店・和洋菓子店等の30店舗が参加しており、特産のフルーツを使用した多彩なパフェが提供される。昨年度より、葉口ゼミでは、岡山商工会議所様のご協力のご賛同をいただき、「フルーツパフェの街おかやま」のInstagramによる情報発信を継続しておこなっている。

今年度も同じく、学生がメインターゲットを若い女性として、季節によって変化するフルーツパフェのメニューを取材し、投稿した。前期はコロナ禍もあり取材も進まなかったが、後期から取材・投稿を再開し、フォロワーも30名ほど増加した。また岡山商工会議所の公式HPにもInstagramのアカウント解説が紹介された。協力店の方から昨年度に続き学生たちが取材に行ったことを大変喜んでくださっているとの報告もあった。今後もこの活動を継続する予定である。



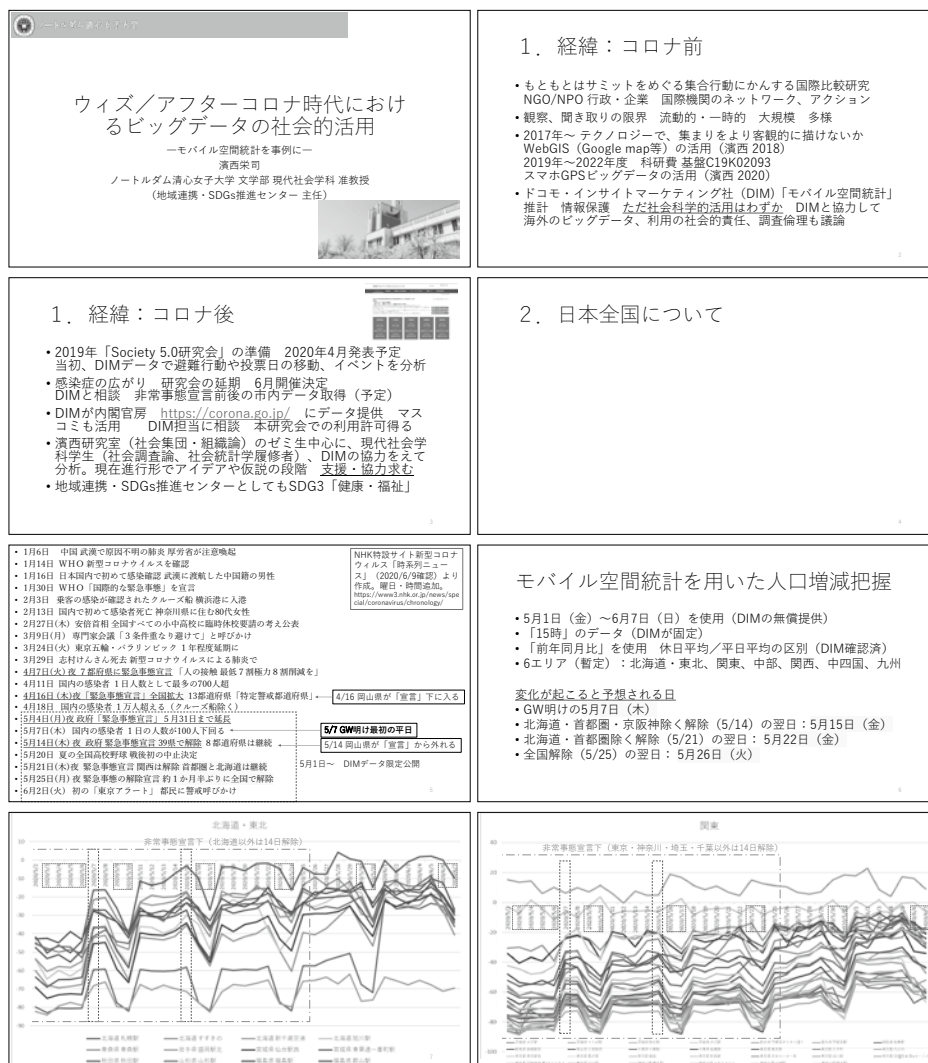
市主催「Society5.0 社会実装研究会」への参加と依頼報告（センター直轄）

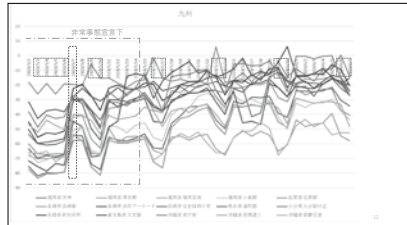
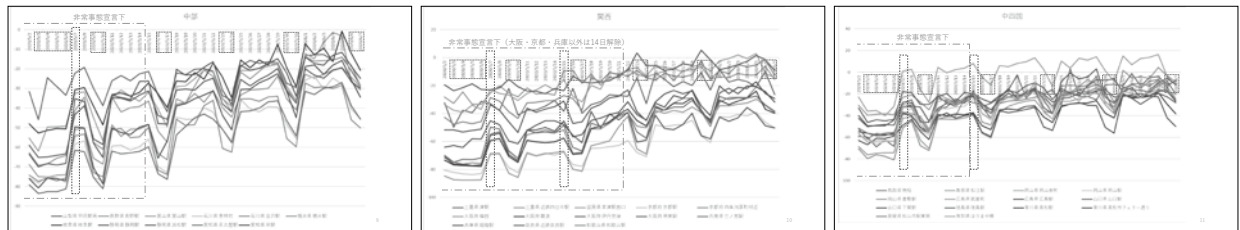
地域連携・SDGs 推進センター主任／現代社会学科 濱西 栄司

2019年8月に、包括連携協定を結ぶ岡山市の政策局大学連携担当より、Society5.0に関する岡山市主催研究会を、市内各大学と連携して実施したい旨、本センターに相談があった。本学は、岡山市が包括連携協定を結ぶ唯一の私立大学であり、研究会に参加することとなった。同8月には、市からの依頼に応じて、学内で Society5.0 に資する研究シーズに関する調査を行い、情報を市に提出した。

「桃太郎のまち岡山 Society5.0 社会実装研究会」第1回研究会は、市長出席のもと、2020年2月に実施された。第2回研究会（6月11日）では、依頼を受けてセンター主任が感染症下における人の行動に関するビッグデータ分析に関する報告を行った。

以下はその際の報告資料、市の研究会ちらし、山陽新聞の取材記事である。





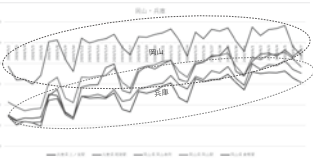
人口増減にかんする仮説（素朴）

- ・人口密度仮説：都会エリアほど減少大
 - ・陽性者数仮説：陽性者多いエリアほど減少大
 - ・ライフスタイル仮説：外食頻度高いエリアほど減少大
 - ・サービス業仮説：対人サービス業中心のエリアほど減少大
 - ・その他
- 実際はもっと複雑なはず
- ・隣接地域の影響を受ける？
 - ・駅と繁華街で、性別、年齢別で増減メカニズムが異なる？
 - ・減少局面と回復局面でメカニズムが異なる？

隣接地域の影響？

- ・地域の中で非常事態宣言解除・非解除エリアが混在した地域：「北海道・東北」、「関東」、「関西」
- ・データを見る限り、非常事態宣言が解除されたエリアと、近隣の非解除エリアの動向がそれほど変わらない？
- ・近隣の一番深刻なエリアの状況には合わせられる傾向がある？
近隣からリスクの高い人が移動し得るので合理的な選択ではある
東京などに大都市 積極的に報道するメディアの影響も

参考：岡山と兵庫 「近隣」？



増減の背後にある複雑なメカニズム （集合行動研究の知見の応用）

- ・自粛/ステイホーム期間に人びとが外に出るメカニズム
以下の（１）～（４）の要因の連関・組み合わせ
- （１）心理的不満：長期化、体調、失業、生活不安、支援不足など
- （２）文化的フレーム：「マスク・距離」とはOK！「若い人は…」
「高齢者は…」 「岡山は…」 など（メディア、SNS 首長・政治家・専門家発言）
- （３）社会経済的資源：移動・消費に必要な金銭 時間的余裕 駅や繁華街に出かける移動のツール（車・自転車他） マスク 情報など
- （４）政治的機会：罰則、法的根拠 警察のチェックアプリによる監視など

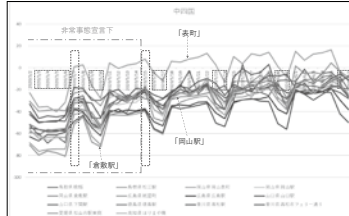
3. 岡山について

「岡山駅」・「表町」



※ メッシュは固定：1/2地域メッシュコード（4次メッシュコード）

「倉敷駅」



宣言下（～5/14）：「岡山駅」6～3割削減（むしろプラスも）
「表町」4～0割削減（むしろプラスも）
（参考：「倉敷駅」8～2割削減）

	2020/5/1	2020/5/15	2020/5/29	2020/6/12	2020/6/26	2020/7/10	2020/7/24	2020/8/7	2020/8/21	2020/9/4	2020/9/18	2020/10/2	2020/10/16	2020/10/30	2020/11/13	2020/11/27	2020/12/11	2020/12/25	2021/1/8	2021/1/22	2021/2/5	2021/2/19	2021/3/5	2021/3/19	2021/4/2	2021/4/16	2021/4/30	2021/5/14	2021/5/28	2021/6/11	2021/6/25	2021/7/9	2021/7/23	2021/8/6	2021/8/20	2021/9/3	2021/9/17	2021/9/30	2021/10/14	2021/10/28	2021/11/11	2021/11/25	2021/12/9	2021/12/23	2022/1/6	2022/1/20	2022/2/3	2022/2/17	2022/2/28	2022/3/13	2022/3/27	2022/4/10	2022/4/24	2022/5/8	2022/5/22	2022/6/5	2022/6/19	2022/7/3	2022/7/17	2022/7/31	2022/8/14	2022/8/28	2022/9/11	2022/9/25	2022/10/9	2022/10/23	2022/11/6	2022/11/20	2022/12/4	2022/12/18	2023/1/1	2023/1/15	2023/1/29	2023/2/12	2023/2/26	2023/3/11	2023/3/25	2023/4/8	2023/4/22	2023/5/6	2023/5/20	2023/6/3	2023/6/17	2023/6/30	2023/7/14	2023/7/28	2023/8/11	2023/8/25	2023/9/8	2023/9/22	2023/10/6	2023/10/20	2023/11/3	2023/11/17	2023/11/30	2024/1/13	2024/1/27	2024/2/10	2024/2/24	2024/3/10	2024/3/24	2024/4/7	2024/4/21	2024/5/5	2024/5/19	2024/6/2	2024/6/16	2024/6/29	2024/7/13	2024/7/27	2024/8/10	2024/8/24	2024/9/7	2024/9/21	2024/10/5	2024/10/19	2024/11/2	2024/11/16	2024/11/30	2025/1/13	2025/1/27	2025/2/10	2025/2/24	2025/3/10	2025/3/24	2025/4/7	2025/4/21	2025/5/5	2025/5/19	2025/6/2	2025/6/16	2025/6/29	2025/7/13	2025/7/27	2025/8/10	2025/8/24	2025/9/7	2025/9/21	2025/10/5	2025/10/19	2025/11/2	2025/11/16	2025/11/30	2026/1/13	2026/1/27	2026/2/10	2026/2/24	2026/3/10	2026/3/24	2026/4/7	2026/4/21	2026/5/5	2026/5/19	2026/6/2	2026/6/16	2026/6/29	2026/7/13	2026/7/27	2026/8/10	2026/8/24	2026/9/7	2026/9/21	2026/10/5	2026/10/19	2026/11/2	2026/11/16	2026/11/30	2027/1/13	2027/1/27	2027/2/10	2027/2/24	2027/3/10	2027/3/24	2027/4/7	2027/4/21	2027/5/5	2027/5/19	2027/6/2	2027/6/16	2027/6/29	2027/7/13	2027/7/27	2027/8/10	2027/8/24	2027/9/7	2027/9/21	2027/10/5	2027/10/19	2027/11/2	2027/11/16	2027/11/30	2028/1/13	2028/1/27	2028/2/10	2028/2/24	2028/3/10	2028/3/24	2028/4/7	2028/4/21	2028/5/5	2028/5/19	2028/6/2	2028/6/16	2028/6/29	2028/7/13	2028/7/27	2028/8/10	2028/8/24	2028/9/7	2028/9/21	2028/10/5	2028/10/19	2028/11/2	2028/11/16	2028/11/30	2029/1/13	2029/1/27	2029/2/10	2029/2/24	2029/3/10	2029/3/24	2029/4/7	2029/4/21	2029/5/5	2029/5/19	2029/6/2	2029/6/16	2029/6/29	2029/7/13	2029/7/27	2029/8/10	2029/8/24	2029/9/7	2029/9/21	2029/10/5	2029/10/19	2029/11/2	2029/11/16	2029/11/30	2030/1/13	2030/1/27	2030/2/10	2030/2/24	2030/3/10	2030/3/24	2030/4/7	2030/4/21	2030/5/5	2030/5/19	2030/6/2	2030/6/16	2030/6/29	2030/7/13	2030/7/27	2030/8/10	2030/8/24	2030/9/7	2030/9/21	2030/10/5	2030/10/19	2030/11/2	2030/11/16	2030/11/30	2031/1/13	2031/1/27	2031/2/10	2031/2/24	2031/3/10	2031/3/24	2031/4/7	2031/4/21	2031/5/5	2031/5/19	2031/6/2	2031/6/16	2031/6/29	2031/7/13	2031/7/27	2031/8/10	2031/8/24	2031/9/7	2031/9/21	2031/10/5	2031/10/19	2031/11/2	2031/11/16	2031/11/30	2032/1/13	2032/1/27	2032/2/10	2032/2/24	2032/3/10	2032/3/24	2032/4/7	2032/4/21	2032/5/5	2032/5/19	2032/6/2	2032/6/16	2032/6/29	2032/7/13	2032/7/27	2032/8/10	2032/8/24	2032/9/7	2032/9/21	2032/10/5	2032/10/19	2032/11/2	2032/11/16	2032/11/30	2033/1/13	2033/1/27	2033/2/10	2033/2/24	2033/3/10	2033/3/24	2033/4/7	2033/4/21	2033/5/5	2033/5/19	2033/6/2	2033/6/16	2033/6/29	2033/7/13	2033/7/27	2033/8/10	2033/8/24	2033/9/7	2033/9/21	2033/10/5	2033/10/19	2033/11/2	2033/11/16	2033/11/30	2034/1/13	2034/1/27	2034/2/10	2034/2/24	2034/3/10	2034/3/24	2034/4/7	2034/4/21	2034/5/5	2034/5/19	2034/6/2	2034/6/16	2034/6/29	2034/7/13	2034/7/27	2034/8/10	2034/8/24	2034/9/7	2034/9/21	2034/10/5	2034/10/19	2034/11/2	2034/11/16	2034/11/30	2035/1/13	2035/1/27	2035/2/10	2035/2/24	2035/3/10	2035/3/24	2035/4/7	2035/4/21	2035/5/5	2035/5/19	2035/6/2	2035/6/16	2035/6/29	2035/7/13	2035/7/27	2035/8/10	2035/8/24	2035/9/7	2035/9/21	2035/10/5	2035/10/19	2035/11/2	2035/11/16	2035/11/30	2036/1/13	2036/1/27	2036/2/10	2036/2/24	2036/3/10	2036/3/24	2036/4/7	2036/4/21	2036/5/5	2036/5/19	2036/6/2	2036/6/16	2036/6/29	2036/7/13	2036/7/27	2036/8/10	2036/8/24	2036/9/7	2036/9/21	2036/10/5	2036/10/19	2036/11/2	2036/11/16	2036/11/30	2037/1/13	2037/1/27	2037/2/10	2037/2/24	2037/3/10	2037/3/24	2037/4/7	2037/4/21	2037/5/5	2037/5/19	2037/6/2	2037/6/16	2037/6/29	2037/7/13	2037/7/27	2037/8/10	2037/8/24	2037/9/7	2037/9/21	2037/10/5	2037/10/19	2037/11/2	2037/11/16	2037/11/30	2038/1/13	2038/1/27	2038/2/10	2038/2/24	2038/3/10	2038/3/24	2038/4/7	2038/4/21	2038/5/5	2038/5/19	2038/6/2	2038/6/16	2038/6/29	2038/7/13	2038/7/27	2038/8/10	2038/8/24	2038/9/7	2038/9/21	2038/10/5	2038/10/19	2038/11/2	2038/11/16	2038/11/30	2039/1/13	2039/1/27	2039/2/10	2039/2/24	2039/3/10	2039/3/24	2039/4/7	2039/4/21	2039/5/5	2039/5/19	2039/6/2	2039/6/16	2039/6/29	2039/7/13	2039/7/27	2039/8/10	2039/8/24	2039/9/7	2039/9/21	2039/10/5	2039/10/19	2039/11/2	2039/11/16	2039/11/30	2040/1/13	2040/1/27	2040/2/10	2040/2/24	2040/3/10	2040/3/24	2040/4/7	2040/4/21	2040/5/5	2040/5/19	2040/6/2	2040/6/16	2040/6/29	2040/7/13	2040/7/27	2040/8/10	2040/8/24	2040/9/7	2040/9/21	2040/10/5	2040/10/19	2040/11/2	2040/11/16	2040/11/30	2041/1/13	2041/1/27	2041/2/10	2041/2/24	2041/3/10	2041/3/24	2041/4/7	2041/4/21	2041/5/5	2041/5/19	2041/6/2	2041/6/16	2041/6/29	2041/7/13	2041/7/27	2041/8/10	2041/8/24	2041/9/7	2041/9/21	2041/10/5	2041/10/19	2041/11/2	2041/11/16	2041/11/30	2042/1/13	2042/1/27	2042/2/10	2042/2/24	2042/3/10	2042/3/24	2042/4/7	2042/4/21	2042/5/5	2042/5/19	2042/6/2	2042/6/16	2042/6/29	2042/7/13	2042/7/27	2042/8/10	2042/8/24	2042/9/7	2042/9/21	2042/10/5	2042/10/19	2042/11/2	2042/11/16	2042/11/30	2043/1/13	2043/1/27	2043/2/10	2043/2/24	2043/3/10	2043/3/24	2043/4/7	2043/4/21	2043/5/5	2043/5/19	2043/6/2	2043/6/16	2043/6/29	2043/7/13	2043/7/27	2043/8/10	2043/8/24	2043/9/7	2043/9/21	2043/10/5	2043/10/19	2043/11/2	2043/11/16	2043/11/30	2044/1/13	2044/1/27	2044/2/10	2044/2/24	2044/3/10	2044/3/24	2044/4/7	2044/4/21	2044/5/5	2044/5/19	2044/6/2	2044/6/16	2044/6/29	2044/7/13	2044/7/27	2044/8/10	2044/8/24	2044/9/7	2044/9/21	2044/10/5	2044/10/19	2044/11/2	2044/11/16	2044/11/30	2045/1/13	2045/1/27	2045/2/10	2045/2/24	2045/3/10	2045/3/24	2045/4/7	2045/4/21	2045/5/5	2045/5/19	2045/6/2	2045/6/16	2045/6/29	2045/7/13	2045/7/27	2045/8/10	2045/8/24	2045/9/7	2045/9/21	2045/10/5	2045/10/19	2045/11/2	2045/11/16	2045/11/30	2046/1/13	2046/1/27	2046/2/10	2046/2/24	2046/3/10	2046/3/24	2046/4/7	2046/4/21	2046/5/5	2046/5/19	2046/6/2	2046/6/16	2046/6/29	2046/7/13	2046/7/27	2046/8/10	2046/8/24	2046/9/7	2046/9/21	2046/10/5	2046/10/19	2046/11/2	2046/11/16	2046/11/30	2047/1/13	2047/1/27	2047/2/10	2047/2/24	2047/3/10	2047/3/24	2047/4/7	2047/4/21	2047/5/5	2047/5/19	2047/6/2	2047/6/16	2047/6/29	2047/7/13	2047/7/27	2047/8/10	2047/8/24	2047/9/7	2047/9/21	2047/10/5	2047/10/19	2047/11/2	2047/11/16	2047/11/30	2048/1/13	2048/1/27	2048/2/10	2048/2/24	2048/3/10	2048/3/24	2048/4/7	2048/4/21	2048/5/5	2048/5/19	2048/6/2	2048/6/16	2048/6/29	2048/7/13	2048/7/27	2048/8/10	2048/8/24	2048/9/7	2048/9/21	2048/10/5	2048/10/19	2048/11/2	2048/11/16	2048/11/30	2049/1/13	2049/1/27	2049/2/10	2049/2/24	2049/3/10	2049/3/24	2049/4/7	2049/4/21	2049/5/5	2049/5/19	2049/6/2	2049/6/16	2049/6/29	2049/7/13	2049/7/27	2049/8/10	2049/8/24	2049/9/7	2049/9/21	2049/10/5	2049/10/19	2049/11/2	2049/11/16	2049/11/30	2050/1/13	2050/1/27	2050/2/10	2050/2/24	2050/3/10	2050/3/24	2050/4/7	2050/4/21	2050/5/5	2050/5/19	2050/6/2	2050/6/16	2050/6/29	2050/7/13	2050/7/27	2050/8/10	2050/8/24	2050/9/7	2050/9/21	2050/10/5	2050/10/19	2050/11/2	2050/11/16	2050/11/30	2051/1/13	2051/1/27	2051/2/10	2051/2/24	2051/3/10	2051/3/24	2051/4/7	2051/4/21	2051/5/5	2051/5/19	2051/6/2	2051/6/16	2051/6/29	2051/7/13	2051/7/27	2051/8/10	2051/8/24	2051/9/7	2051/9/21	2051/10/5	2051/10/19	2051/11/2	2051/11/16	2051/11/30	2052/1/13	2052/1/27	2052/2/10	2052/2/24	2052/3/10	2052/3/24	2052/4/7	2052/4/21	2052/5/5	2052/5/19	2052/6/2	2052/6/16	2052/6/29	2052/7/13	2052/7/27	2052/8/10	2052/8/24	2052/9/7	2052/9/21	2052/10/5	2052/10/19	2052/11/2	2052/11/16	2052/11/30	2053/1/13	2053/1/27	2053/2/10	2053/2/24	2053/3/10	2053/3/24	2053/4/7	2053/4/21	2053/5/5	2053/5/19	2053/6/2	2053/6/16	2053/6/29	2053/7/13	2053/7/27	2053/8/10	2053/8/24	2053/9/7	2053/9/21	2053/10/5	2053/10/19	2053/11/2	2053/11/16	2053/11/30	2054/1/13	2054/1/27	2054/2/10	2054/2/24	2054/3/10	2054/3/24	2054/4/7	2054/4/21	2054/5/5	2054/5/19	2054/6/2	2054/6/16	2054/6/29	2054/7/13	2054/7/27	2054/8/10	2054/8/24	2054/9/7	2054/9/21	2054/10/5	2054/10/19	2054/11/2	2054/11/16	2054/11/30	2055/1/13	2055/1/27	2055/2/10	2055/2/24	2055/3/10	2055/3/24	2055/4/7	2055/4/21	2055/5/5	2055/5/19	2055/6/2	2055/6/16	2055/6/29	2055/7/13	2055/7/27	2055/8/10	2055/8/24	2055/9/7	2055/9/21	2055/10/5	2055/10/19	2055/11/2	2055/11/16	2055/11/30	2056/1/13	2056/1/27	2056/2/10	2056/2/24	2056/3/10	2056/3/24	2056/4/7	2056/4/21	2056/5/5	2056/5/19	2056/6/2	2056/6/16	2056/6/29	2056/7/13	2056/7/27	2056/8/10	2056/8/24	2056/9/7	2056/9/21	2056/10/5	2056/10/19	2056/11/2	2056/11/16	2056/11
--	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	------------	------------	------------	-----------	------------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	-----------	------------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	---------

5. その他の連携活動に関する報告

令和2年度「地域を学んでのこさずたべよう」事業に関する報告

食品栄養学科 吉金 優

令和2年度地域を学んでのこさず食べよう事業（岡山県）に採択され、赤磐市立城南小学校3年生に対して出前講義を実施したので報告する。本事業は、若い世代の食品ロス削減意識の醸成のため、大学生が、食品がつくられるまでの労力や食品が生まれてくる地域の土壌・気候・風土等をフィールドワークで研究し、若者の視点や発想を生かした小学生向けの教材を作成の上、小学校での出前講座等を行うものである。

食品ロスは、食品が生産されて食卓にのぼるまでの生産・加工・流通販売・消費のすべての過程で生じている。そこで、各過程で食品ロスを減らすための取り組みについて、フィールドワークにより調査した。

生産：消費計画にあわせた生産・管理体制、規格外品の活用について

小学生とごぼう掘り体験

視察先：ごぼう農家（赤磐市）

加工：農産物（規格外品も含む）を利用した食品加工について

視察先：さんようみねるば（赤磐市）

加工：加工による消費・賞味期限の延長および付加価値化について

視察先：一般社団法人岡山県農業開発研究所（赤磐市）

流通・販売：フードバンクへの寄付や店舗での工夫について

視察先：株式会社ハローズ（早島町）

赤磐市立城南小学校での出前授業を行った。授業の様子（動画）は、以下の通りである。

<https://youtu.be/7M7vvovGnO4>

授業内容は、フィールドワークで調べた生産・加工・流通販売での食品ロスを減らす取り組みを、写真や媒体、クイズ形式を多用して紹介した。そして、その日の給食を題材として、残さず食べるには、どうすればよいか小学生に発表してもらった。また、授業後の給食の摂取状況（がんばり度）を把握するために、「ごちそうさまチェックシート」を作成し、5日間の給食の頑張り度を評価した。担任の先生からは、「児童は『1週間、給食を残さないように頑張っておこう』と意識することができました。今後も続けていけるようにしたいと思います。」との言葉をいただいた。

担当学生の授業を終えた感想は、「分かりやすい・伝わる授業の実施には、いかに綿密な準備が必要

か身をもって体験できた。『苦手なものを食べられた』『おかわりをした』など授業で学んだこと以上に実践できていてとても嬉しかった。」であった。

調査に協力いただいた是里ごぼう生産者の皆様、一般社団法人岡山県農業開発研究所、さんようみねるば、株式会社ハローズの皆様に厚くお礼申し上げます。また、このような機会を与えていただいた赤磐市立城南小学校、赤磐市教育委員会、岡山県環境文化部 循環型社会推進課の皆様にも感謝申し上げます。さらに、本事業実施に当たり、数々のご協力を頂きました本学地域連携・SDGs 推進センターの教職員の皆様にも感謝申し上げます。

地域から信頼され、地域に根差した大学を目指す本学にとって、このような地域連携活動の積み重ねが重要であり、このような地域貢献活動を今後も積極的に推進していきたい。



授業の様子



ごぼう掘り体験の様子



ごちそうさまチェックシートとご褒美メダル

IV. 実績報告（SDGs 推進）¹

1. 「SDGs 理解」推進に関する活動実績一覧

1) 「SDGs」理解に関する寄稿・発表・説明・取材等

年 月 日	内 容
2020(令和2)年4月15日	本学の「地域連携・SDGs 推進センター」の趣旨について、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年6月15日	地域連携・SDGs 推進センター発行の「2019 年度活動実績報告書」について、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年6月17日	学内キリスト教文化研究所研究会（SDGs）においてセンター主任が報告。
2020(令和2)年6月25日	SDGs の紹介「コロナ禍の全国・岡山市の人口増減」について、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年8月5・19日	岡山市男女共同参画センター主催「令和2年度 さんかくカレッジ」の受講生募集について、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年9月8日	SDGs ネットワークおかやま主催・山陽新聞社共催「第5回山陽新聞社140周年記念地域づくり連続シンポジウム「地域学のススめ」」のプレイベントについて、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年9月9日	ヒューライツ大阪の英語機関紙 <i>Focus</i> の SDGs 特集に原稿掲載。【資料編に掲載】
2020(令和2)年9月10日	SDGs の紹介「SDG5・4・11 推進に関わるとりくみ」について、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年9月16日	倉敷市・特定非営利活動法人岡山 NPO センターが主催する「くらしき SDGs ネットワーキングセミナー@児島『ファッション×SDGs』」の募集について、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年9月16日	SDGs の紹介「2030 アジェンダと 169 ターゲット」について、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年9月11日	岡山県男女共同参画ゼミナールにおいてセンター主任が講演。
2020(令和2)年9月11日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームへの参加資料作成とエントリー実施。
2020(令和2)年9月14日	株式会社リコーの SDGs 担当の応接。
2020(令和2)年9月17日、25日、10月7日	山陽新聞 SDGs 特集の打ち合わせ・取材。【資料編に掲載】
2020(令和2)年9月29日	センター主任が寄稿した『ESD がグローバル社会の未来を拓く :SDGs の実現をめざして』（ミネルヴァ書房）出版。
2020(令和2)年9月29日	岡山県ウェブサイト「女性の未来設計」を応援するページについて、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年10月5日	岡山 NPO センターが主催する連続イベント「はじめてのパブリックコメント」の募集について、学生に manaba folio で紹介。

¹ 地域連携の実績として報告されているものは除いている。

2020(令和2)年10月15日	本学の設立母体「ナミュール・ノートルダム修道女会」の国連オフィスのブログについて、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年10月15日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム事務局によるヒアリングと対応資料作成。
2020(令和2)年10月16日	岡山市主催「さんかくウィーク 2021」実行委員の募集について、学生に manaba folio で紹介
2020(令和2)年10月17日	岡山県の男女共同参画推進センターの記念講演「日本の男女共同参画はなぜ歩みがのろいのか」について、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年10月19日	国連大学 SDG 大学連携事務局より参加決定の連絡。事前アンケート資料の作成。決定後は学長事務室に移管。
2020(令和2)年11月6日	本学の条例改正の取り組みなどが掲載された山陽新聞（全県版）の「SDGs 特集」について、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年11月11日	来学された日本マイクロソフト株式会社政策渉外・法務本部社会貢献担当部長と NPO センター代表理事の応接応接。
2020(令和2)年11月23日	岡山市／ESD・市民協働推進センターが主催する「令和2年度市民活動リーダー養成講座実践、SDGs！～ソーシャルビジネス入門編～」の募集について、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年11月29日	岡山市が共催する ESD 学生インターンシップの案内について、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和3)年1月19日	FM レディオモモの SDGs 番組において主任が SDG1 について解説。
2021(令和3)年1月27日	倉敷市・特定非営利活動法人岡山 NPO センターが主催する「子ども×SDGs」に関するイベントについて、学生に manaba folio で紹介。
2021(令和3)年1月27日	山陽新聞社の連続シンポジウム：SDGs 地域課題を探る 第1回「つながりのあした～ウイズコロナの時代に」の募集について、学生に manaba folio で紹介。
2021(令和3)年2月3日	岡山市の ESD・市民協働推進センターより、「SDGs ユースの集い」の募集について、学生に manaba folio で紹介。

2) ナミュール・ノートルダム修道女会の「SDGs 理解」に関する紹介等の活動

年 月 日	内 容
2020(令和2)年12月14日、 2021(令和3)年2月12・20・ 23日、3月2・8日	昨年度に引き続き、ナミュール・ノートルダム修道女会国際連合オフィス・ブログ (SND at UN) の SDGs 関連 6 記事の日本語訳作成（英語英文学科 OG、現東京大学大学院生による下訳の上で、左記年月日に約 2 時間、センター主任と協議・添削）。【資料編に掲載】

2. SDGs の達成に関する活動実績一覧

1) SDGs (SDG5) 活動参加機会の提供

年 月 日	内 容
【継続】2020(令和2)年 11月	さんかくウィーク 2020 実行委員に本学学生 9 名参加。【詳細は活動報告】

2020(令和2)年1月～3月	さんかくウィーク 2020 のオープニングイベント（6/7）にセンター主任の講演決定。ウィークの展示も本学の取り組みに。
2020年4月16日	感染症対策のため、さんかくウィーク 2020 の講演・講座・展示等中止。
2020(令和2)年4月15日、5月21日、6月5日	岡山市が実施する「2020 年度 男女共同参画に関する市民意識・実態調査（案）」の作成協力を、学生に manaba folio で依頼。
2020(令和2)年6月29日	岡山市より 2020 年度ユネスコスクール年次交流会用会場の提供依頼。入試日程、及び感染症レベルから断念。
2020(令和2)年12月21日	岡山県の男女共同参画（ジェンダー平等・女性差別撤廃）に関する政策プラン（2021～25 年度）へのパブリックコメント募集について、学生に manaba folio で紹介。
2021(令和3)年1月22日	岡山市のまちづくり全体計画「岡山市第六次総合計画「後期中期計画」（素案）」と「第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」へのパブリックコメント募集について、学生に manaba folio で紹介。
2020(令和2)年10月16日	岡山市主催「さんかくウィーク 2021」実行委員の募集について、学生に manaba folio で紹介

2) 岡山県男女共同参画政策に対する政策提言活動への支援

年 月 日	内 容
2020(令和2)年10月1日～12月20日	自立力育成ゼミ V（模擬国連）における岡山県への政策提言プロジェクトの支援。【詳細は活動報告】

3. SDGs 推進に関する活動報告

1) 「さんかくウィーク 2020 実行委員会」活動報告

現代社会学科 3 年 土井原 華苗

岡山市では、性別にかかわらず市民一人ひとりの個性が輝く男女共同参画社会の実現をめざし、6 月 21 日から 27 日を「さんかくウィーク」（岡山市男女共同参画推進週間）と定め、この前後 1 週間を含めた 3 週間の期間中、男女共同参画及び女性が輝くまちづくりへの理解が深まるよう、さまざまな取り組みを行っている。

「さんかくウィーク 2020」では「みんなが主役 個性よ翔け さんかく社会」をテーマに、約 1 か月間にわたるイベントを通じて、性別等にかかわらず、市民一人ひとりの個性が輝く「住みよいまち、住みたいまち」の実現に向けて、実行委員と事務局スタッフが性別や世代を超えて協力し合い、様々なイベントを企画した。オープニングイベントの一環として、ノートルダム清心女子大学濱西栄司先生による講演会及び座談会が企画されていた。濱西先生は「県迷惑防止条例」改正に尽力された。条例改正以前は執拗な勧誘や客引きは規制の対象となっておらず、「キャッチ」や「スカウト」が取り締まられることはなかった。さらに、岡山駅や倉敷駅付近では悪質な客引きなどが頻繁に行われていたが、多くの人びとが同じような被害に遭っていたため警察に相談するほどのことではないと捉えられていた。そのため、被害の状況が明らかになっておらず、我慢する女性が多くいたのではないかと考えられている。そのような状況を打破するための条例改正には、同大学の学生も携わっておりアンケート調査に協力し、自主的にパブリックコメントを提出するなどして議会へ主張を届けた。この条例改正を通じ、一人ひとりがきちんと声を上げることによって、より良いまちづくりにつながり、社会を変えられるということが明確に示された。

「住みよいまち、住みたいまち」への実現には、市民が意識を具現化し、行動に起こしていくことが求められる。しかし、不快、不満を感じている事例に対し、どのように声をあげればいいのか、どこに訴えればいいのかかわからず、そのまま我慢を強いられている現状があるのではないかと考えられる。「さんかくウィーク 2020」は新型コロナウイルス感染拡大により、多くの企画・イベントが中止となった。多くの市民に参画社会、SDGs について考える機会がひとつ失われることとなってしまったが、実行委員として参加した学生は企画を立案していく中で、自身の見識を広げ、理解を深めることができたであろう。その知識を共有し、一人ひとりが問題意識を持ち、地域をより良くするための活動に対し関心を高め、行動していくことが重要である。岡山市が性別、年齢、国籍など関係なく、それぞれがお互いを尊重し、心地よいまちとなっていくことを願っている。

2) 岡山県への政策提言活動の支援

地域連携・SDGs推進センター主任／現代社会学科 濱西 栄司

自立力育成ゼミⅤ（英語英文学科ファスト先生担当）は履修学生が実際に模擬国連に参加する授業である。詳細は次ページ以降をご覧ください。2020年度模擬国連テーマがSDG5（ジェンダー平等と女性のエンパワメント）であったことから、受講学生は自主的に岡山県のジェンダー状況を分析し、県への政策提言文書も作成した。本センターは、県男女共同参画センターと県男女共同参画青少年課に相談を行い、それらのもろもろ調整を行うとともに、英語で作成された提言文章の日本語訳のチェック、マスメディアへの広報等の支援を行った（新聞記事）。

以下に掲載される、3）は英語英文学科ブログに掲載された報告文章の参加学生による和訳文章、4）はその学生による感想文である。

◆女性の仕事と子育ての両立
・父親対象のキャンペーンや講習会
・出産、育児休暇の重要性を強調するセミナーを各企業で年1回以上実施

◆障害のある女性の労働
・県内企業への税制優遇制度の周知徹底
・障害者雇用促進法の認知を高めるポスターの作製と企業への協力要請

◆女性の管理職登用
・議会の議員候補者や議席の一定比率を女性に割り当てるクォータ制の導入
・高校や大学で女子を対象にしたセミナーの開催

◆セクハラなどの防止
・自覚なく加害者になっている人に向けたキャンペーン
・SNSを活用したホットラインの啓発

ノートルダム清心女子大生が示した主な提言内容

SDGs 視点 県へ政策提言

清心女子大生

学生は1連の講義を終えた6月、地域に目を

エリア
NOW

ノートルダム清心女子大（岡山市北区伊福町）の学生たちが、国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）のジェンダー平等の視点に立ち、行政への政策提言に取り組んだ。「模擬国連」と呼ばれる形式で問題提起から解決策立案までを学んだ学生約20人が、母親の仕事と子育ての両立や女性管理職の増加といった地域課題に着目し、自主的に研究を進めた。今月初めには具体的な解決策を県へ届けた。

（斎藤章一朗）

ジェンダー平等 4 課題研究

から、国際社会から自分たちの住む地域へと目を向けて研究を継続した。特にジェンダー平等といった観点から県課題を探った。取り上げたのは女性の仕事と子育ての両立、障害のある女性の労働、女性の管理職登用、セクハラなどの防止の4点だ。

例えば、仕事と子育ての両立では、行政機関の統計などを引用し、退職の理由として妊娠と育児、両親の介



県へ政策提言するノートルダム清心女子大生（同大提供）

護を要する人が多いことや、女性のパートタイム労働者の割合が高く、男女の賃金格差の1因となっていると指摘。家事や育児への父親の積極的な参加を促したキャンペーンや講習会を実施したり、フレックスタイム制やリモートワークの導入により母親が正社員として働きやすい環境を整備したりすることを提案した。

学生たちは「実現可能な提言を意識し、小さな取り組みが広がって社会に影響を与えられるよう考えた」といい、四つの課題について計23項目の解決策を提示した。

行動が重要

山陽新聞（2020年12月20日）

3) 2020 年模擬国連活動報告

トーマス・ファスト (英語英文学科)

(自立力育成ゼミⅤ担当)

※訳：英語英文学科4年 上野 麻莉・岸本 彩

2020 年は模擬国連 (MUN) 活動において良い年だったとは言い難いでしょう。2019 年 11 月にドイツで開催された模擬国連世界大会 (Honorable Mention” for Best Delegation 受賞) へのノートルダム清心女子大学の参加を最後に、今年はどの模擬国連も開催されないかもしれないと言われていました。そのような状況であったのにも関わらず、本校の学生は今年、今までで最も活発な模擬国連活動を送ることができました。2020 年の本学の活動を下記に記述させていただきます。

Japan University English Model United Nations (JUEMUN)

中止が危ぶまれた JUEMUN (日本大学英語模擬国連大会) でしたが、オンラインで開催されることが決定し、150 人もの学生が参加しました。本来は3日間で開催される大会ですが、今回はオンライン上での開催ということもあり、春から6月末までという長期間で行われました。参加者はズーム、フリップグリッド、Google ドキュメントなど様々なツールを駆使し、世界の女性のエンパワーメントについて議論しました。



本学からは、自立力育成科目 (模擬国連) を履修している 20 人の学生が JUEMUN に参加しました。学生、いわゆる大使はとても一生懸命で、夜遅くまで取り組む様子も頻繁に見られました。履修者のほとんどは初心者でしたが、4 人の経験者のサポートもあり、最終的には、他大学の 150 人の大使と共に、政策スピーチ、決議案制作、交渉を行うことができました。

Gender Equality Project

6 月に JUEMUN が終わり、学生たちは必須の授業時間数である 16 時間以上活動に取り組んでいたため、私たち教授は学生に授業を早めに終わらせることを提案しました。しかし、授業を続けることを望む熱心な学生が多く、したがって7月以降、グローバルな視点からローカルな視点に移し、岡山県での女性の労働状況に着目し、授業を続けることにしました。学生は、以下の4つのコミティーを形成しました。

1. 働く母親
2. 管理職における女性
3. 職場でのセクシュアルハラスメント
4. 障害のある女性の労働改善

今回は他国を代表せず、近い将来職場で働くノートルダム清心女子大学の若い女性として自分自身を代表しました。



7月中、学生は課題を研究し、考えを共有し、議論しました。そして、岡山県の行政に対して提案が書かれた4つの決議案の草案を制作しました。夏季休暇中には草案をさらに推敲し、日本語に訳していきました。

12月初旬、岡山県のウィズセンターから招待をいただき、8ページに及ぶ決議案を行政、特に男女平等を改善しようとする方々に提出しました。4つのコミティーの代表者それぞれが決議案を発表しました。学生は県の職員からの難しい質問にも専門的に答えており、県の職員の方も非常に感心しておられました。次の政策会議で学生の考えも考慮するとおっしゃっていただき、教授として、他国をロールプレイしていた学生が実際の地域行政の意思決定に自信を持って関わったことをとても誇りに思います。

以下が学生の経験談です。

- ・ 男女平等プロジェクトに関わっていなかったら、私は内気な人間だったと思います。これらの模擬国連活動は自分を強くしました。 菊地夢未 (2回生)
- ・ 日本は先進国ですが、男女平等に関しては全く進んでないです。まだ強い固定観念があり、それを変える必要があるのは私たちです。 久米井万実 (2回生)
- ・ 模擬国連の授業を通して、私は自信ができました。4月には自分の現在の成長を想像することはできませんでした。模擬国連の授業で内気から自発的な自分になりました。そして、コミティーのリーダーとして岡山県に私たちの考えを表現することができました。私の考えを変えてくれたクラスメート、教授にとっても感謝します。 海崎美穂 (2回生)
- ・ 私は外国の問題や他国が実行している政策について学ぶことができました。また、リサーチ技術も磨くことができました。日本の男女平等について調べたとき、日本は改善が必要な問題がたくさんあるということを改めて認識しました。私は男女間に差はないと思っていましたが、気がついてないだけで実際はジェンダーギャップを経験していました。実際に岡山県の職員に提案を共有した経験はとても貴重で、将来日本で働く女性として役に立つと思います。 平歩実 (2回生)
- ・ 世界において男女平等におけるランキングが日本はとても低いということを知って衝撃的でした。働く母親、管理職における女性、職場でのセクシュアルハラスメント、障がいのある女性、すべてにおいて、考えを変えるために、政治家や会社の上層部の方々に対して積極的な取り組みをしなけ

ればなりません。被害者や周りの数人だけが行動するのは不十分です。 岩岸みなみ (3 回生)

- ・ 4 月から 12 月までこのプロジェクトを楽しんで行うことができました。リサーチ期間、特に 4 月始めはとても苦痛でしたが、たくさんの人が私を助けてくれ、オンライン上ではありましたが友達が頑張っている姿を見ることができました。その姿に感銘を受け、自分を勇気づけました。また、オンラインで行われた模擬国連では、たくさんの大学生が国際的な話題に興味を持ち、真剣に考えているということを知ることができました。もしこの授業を履修していなかったら、同じような年齢の人と国際問題について深く考えていなかったと思います。JUEMUN は私にとって、とても貴重な経験で、考えを広げることができました。JUEMUN の後は、地域の問題に焦点をあて、私自身にとっても関わっていてとても役立ちました。そして、「勉強」が「毎日の生活」につながっていることを感じました。理想と現実の差を埋めるのは難しいと思います。将来働く女性として、結婚や出産が転機になりますが、仕事をやめるという意味ではありません。 谷本知佳 (4 回生)

- ・ この 2 年間の模擬国連活動で調べたこと、学んだこと、議論したこと、そして友達と苦戦しながらもひとつひとつを乗り越えてきたという経験を忘れないでいたいと思います。模擬国連は今までで一番大変な授業だったけれど、一度もやめたいと思ったことはありませんでした。模擬国連活動は私の大学生活を輝かせてくれました。この活動を通して友達もできました。とても良い経験でした。

上野麻莉 (4 回生)

Okayama Model United Nations (OKAMUN)

後期の自立力育成科目では、神戸での世界模擬国連大会参加に向けて準備をする予定でしたが、新型コロナウイルス拡大のため大会は中止になりました。本学の学生だけに限らず他大学にも模擬国連大会に参加したいと思う学生が多かったため、本学がホスト校となり、模擬国連大会 (OKAMUN) を開催することを決めました。テーマは、「コロナ禍における飢餓」です。大会は日本大学英語模擬



国連大会と同じように、オンラインで行われ、秋の間会議を開き、12 月 6 日に最終セッションがZoomで開かれました。大会はノートルダム清心女子大学の学生によって構成され、本学の学生が事務総長、議長、副議長などを務めました。5つの大学から約 60 人の参加がありました。この模擬国連大会は大成功を収めました。後に行った本学の学生へのアンケートによると、大会への参加は、英語力の向上や、グローバル人材としての成長、また、持続可能な開発目標へのさらなる興味をもたらしたということが分かりました。

これらのことより、今年は、本来の対面での大会はできませんでしたが、本学の模擬国連活動をより強固なものにすることができました。私たちは、模擬国連リーダーを育成し、ホスト校として大会

を開催することができました。また、本学での模擬国連活動をこれからも続けていくためにおそらく最も大切なことである、本活動に対する専門的知識を先輩から後輩へ受け継ぐこともできました。また、男女平等プロジェクトではグローバルからローカルな視点へ、バーチャルから実際の観点へ移行し岡山県へ政策を提言することができました。2020年は本学の模擬国連の学生にとってとても充実した1年だったことと思います。私は、これらを経験した学生なら、今後に起こりうる何事にも対応できると確信しています。

4) 模擬国連・政策提言活動報告と感想

英語英文学科 4 年 上野 麻莉・岸本 彩

ノートルダム清心女子大学では、2018 年の筑波大学で行われた模擬国連大会への参加を機に、模擬国連のプログラムが本格的に始まりました。翌 2019 年には、神戸で行われた日本大学英語模擬国連大会とドイツで行われた模擬国連世界大会に参加させていただきました。模擬国連活動は、学生主体で進められ、学生それぞれが実際の国際連合の大使をロールプレイし、17 の持続可能な開発目標（SDGs）に関連する世界的な問題を解決しようとするものです。それぞれの模擬国連大会にはテーマがあり、例えば、環境問題、飢餓、平等などがあります。2020 年 6 月の日本大学英語模擬国連大会は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、オンラインで行われ、SDGs のゴール 5 と 8 に関係する女性の経済的エンパワーメントについて議論をしました。本大会終了後の 7 月からは大学内で、グローバルだった視点をローカルな視点に変え、「働く女性」を主題にし、「働く母親」「管理職における女性」「職場でのセクシュアルハラスメント」「障害のある女性」という 4 つの観点で議論を始めました。岡山県の現状を調べ、解決策を議論し、4 つの決議案を作成しました。12 月には岡山県のウィズセンターへそれらを提出し、議論しました。

模擬国連での活動では、まず、相手の立場になって考えること、物事を多角的にみて考えること、そして、目に見えるものだけでなく目に簡単には見えないものをみようと、または感じ取ろうとすることを学びました。問題の背景要因は文化や風習、歴史などの場合が多くあり、これらが要因の際、人々の考え方を根本から変えることは難しいため、解決策を工夫することが求められました。議論を通して、少数意見への傾聴や批判的意見への妥協案の提案などの交渉スキルを磨くこともできました。また、実際に国連の公式言語である英語を使って議論をすることで、日本人としての視点だけでなく、国際人として世界の問題に対して議論ができたと考えます。日頃から英語を使用することは、将来世界を舞台に活躍できる人材になるための最初の一步として大切なことだと感じました。

今回の活動は、今まではあまり意識していなかったジェンダー、特に女性に関する差別や格差といった問題を自分事として考えるきっかけになったように感じます。また、実際にウィズセンターに決議案を提出してみて、提案することは簡単なことですが、実際に動くことは大変なことだと感じました。県の職員の方から、企業に何かをしてもらったり、新しい制度をつくったりすることはとても大掛かりになるということを聞きました。既存の制度を積極的に使うというのがいかに大切であるか痛感しました。今回の提言は「働く女性」を主題として作られていますが、提言内では女性だけでなく男性のことも述べられています。課題の背景にある要因をしっかりと分析し、実現可能であろう解決策を考えました。この提言で少しでも岡山県が、ひとりひとりにやさしく、それぞれが、それぞれの置かれた状況下で働きやすく、暮らしやすい場所になっていけばいいと思います。学生主体で進めてきたプロジェクトを見守り、要所要所でアドバイスを下さったファースト先生をはじめ、この活動に携わってくれた全ての方に心から感謝します。

4. SDGs 推進に関する資料

1) ヒューライツ大阪 Focus 誌 SDGs 特集への寄稿（英訳版）

（※昨年度、ヒューライツ大阪（一般財団法人 アジア・太平洋人権情報センター）日本語機関紙『国際人権ひろば』に寄稿した文章の英語版。英語に翻訳したうえで英語機関紙に掲載したい旨、依頼があり承諾。以下のウェブサイトにも掲載済。 <https://www.hurights.or.jp/archives/focus/section1/2020/06/> ）

✚ FOCUS ASIA-PACIFIC

JUNE 2020 VOLUME 100

Achieving SDGs through Local Ordinances

Eiji Hamanishi

With ten more years to go before the deadline for achieving the Sustainable Development Goals (SDGs) in 2030, local ordinances are extremely important in achieving those goals in the local community.

For several years, men in suit or casual clothing would approach young women to recruit them to work in the sex industry at the train stations in Okayama and Kurashiki cities in Okayama Prefecture. Many women have been targeted day and night in an organized manner. Without any ordinance in Okayama Prefecture prohibiting these acts, the police could not take any action against these men.

Many students of a women's university pass through the Okayama station on their way to school. Since I teach in this university, I conducted a simple survey among students in my class on this problem and found out that approximately two-thirds of the students had experienced aggressive acts of recruitment.

Their experiences included escaping through the station ticket gates because they were persistently followed, being closely followed all the way from the West Exit to the East Exit, being offered to work for a hostess bar once a week, being called out five times by the same person, being followed

around and persistently told that she could make 500,000 Yen (if she worked in the sex industry).

Conflict with Goals 4, 5 and 11

The Okayama Prefecture is often considered as having advanced programs on SDGs. Yet the daily persistent aggressive acts of recruitment by men around the train stations is nothing but “violence” against the targeted female students. This situation goes against Goal 5 of the SDGs (gender equality), especially Target 5.2 on elimination of “all forms of violence against all women and girls in public and private spheres.”

Also, the female students face aggressive acts of recruitment around the Okayama station on their way to school every day. This results in (1) feeling uncomfortable when they go to school, (2) having bad feeling about this problem while studying at the university, (3) and fearing the recruiters while taking the train to go home. This situation also contravenes Target (4a) of providing “safe, non-violent, inclusive and effective learning environments for all” of Goal 4 (education) of the SDGs.

Furthermore, the situation around the stations of Okayama and Kurashiki, where blatant and pernicious aggressive acts of recruitment happen

continuously day and night seven days a week, is against Target 11.7 of providing “universal access to safe, inclusive and accessible, green and public spaces, particularly for women and children, older persons and persons with disabilities” of Goal 11 (sustainable cities and human settlements).

If Okayama Prefecture values its image as a place with advanced programs on SDGs, it should improve this situation.

It can be argued that in a democratic country such as Japan these acts cannot be restricted because they are economic activities. But the nature of these activities should be sufficient basis for their prohibition. Indeed, this terrible situation around the two stations, which are gateways to Okayama Prefecture for many visitors for business and tourism, is damaging the image of the prefecture as a whole that leads to considerable economic loss.

The harm caused by these aggressive acts of recruitment, seen in urban commercial areas in the country, cannot be addressed by a uniform national law. Local ordinances are needed to regulate or prohibit these acts in a manner appropriate to the area.

Amending an Ordinance

The move to amend the Anti-nuisance Ordinance of Okayama Prefecture by adding a prohibition on aggressive acts of recruitment in the prefecture began in 2018.

People in communities around Kurashiki and Okayama stations petitioned the Prefectural Council and its members and the prefectural government to prohibit the increasingly aggravating “solicitations” related to the sex industry. As the harms of aggressive acts of recruitment targeting students became apparent, the Prefectural Police prepared a draft amendment of the prefectural Ordinance.

In May 2018, a Member of the Prefectural Council raised the issue at the plenary session in a formal question to the Governor and the Chief of the Prefectural Police, with students watching from the public gallery. The issue was repeated in further questions. The Prefectural Police reacted positively, and for almost a year since then, the police focused on patrolling areas around Kurashiki Station. The Chief of the Prefectural Police himself inspected the area.

As a result, in November 2018, the Prefectural Police submitted an outline of the draft amendment of the Anti-nuisance Ordinance to the Prefectural Council Committee on Industry, Labor and Police. The draft amendment included an expansion of the scope of prohibition of surreptitious photographing, expansion of businesses covered under the

prohibition of solicitation and recruitment, prohibition of recruiting and standing by to recruit, as well as sanctions for employers of persons engaging in these acts.

The public was invited to submit comments on the draft amendment from 22 November to 21 December 2018 resulting in two hundred forty-six comments, all supporting the proposed amendment and no single opposition. This was the largest number of responses received among the more than three hundred invitations for public comment on prefectural policy plans including draft ordinances. It seems that many students at the university voluntarily sent comments through the prefectural website.

Finally, on 3 July 2019, as the students watched from the public gallery, the draft amendment of the Anti-nuisance Ordinance was adopted in full.

The Experience of “Changing” the Ordinance

While the draft amendment was being prepared and discussed, the students participated in surveys, voluntarily observed the Council sessions, and submitted comments. These experiences seem to have enabled them to gain political empowerment, and a sense of being politically effective. Majority of the students who responded to a questionnaire conducted soon after the adoption of the amendment expressed this view. Below are some of their responses in the questionnaire:

I was able to reaffirm that when each of us raised our voice, it would reach the government, as it did in this case of the Anti-nuisance Ordinance. So, I thought that when more students vote, there may be more policies for students.

xxx xxx xxx

A year ago, when I was asked to respond to the survey, I had misgivings about whether it was meaningful. But now that the Anti-nuisance Ordinance was adopted, I learned firsthand that my views could be reflected in public policy, and so I thought I should go to vote.

Now students are more interested and actively studying local Councils and ordinances. One student wrote in her response, “There is an area around the shopping arcade in Takamatsu where I often go that is dangerous ... so I am thinking of looking into the ordinances in the place.”

Continuing Harm and Uncertainties Ahead

The Ordinance will enter into force on 1 October 2020. Until then, the aggressive acts of recruitment continue. This was expressed in the questionnaire:

Two men came up to me and asked whether I would like to work in Tokyo and Osaka. They said they will contact me through Line and Instagram.

xxx xxx xxx

A girl was approached at Okayama Station, and was being followed until she went

through the ticket gate. The act was blatant, even though it was daytime. I really hoped the Ordinance would be enforced soon.

Many students were also worried whether or not the police would seriously control these acts after the Ordinance came into force. Some wrote in the questionnaire:

I am unsure whether the police will enforce the Ordinance after it is enacted. I hope that it will not be just at the beginning, when it would have public attention.

xxx xxx xxx

I am concerned, whether the police will come and patrol each time the recruitment occurs.

It is therefore necessary to continue monitoring the activities of these men and follow-up on the issue.

After 1 October 2020, the Prefectural Police will be responsible for addressing the issue, and the harms and burdens on the individual will no doubt decrease significantly. If the police are found to be negligent, a complaint may be filed (under Article 79 of the Police Act) to the Okayama Prefectural Public Safety Commission (consisting of academics and lawyers) which oversees the Prefectural Police. The Commission also has a high regard for the draft amendment of the Ordinance, calling it "groundbreaking."¹

Creating /changing Rules to Achieve SDGs

In order to achieve the SDGs, it is certainly important to make various efforts under existing ordinances. But in cases where existing ordinances are causing harm, or when SDGs could be achieved by changing ordinances, there should definitely be attempts at enacting and/or amending the ordinances themselves. Calling for the enactment/amendment of ordinances would not require a budget or subsidy. All that is needed is to bring together the general public's dissatisfaction and the voices of the victims and appeal to the Council or their Members to act on the issue, and Members and government officials who have the expertise on the matter would prepare the draft ordinance. This will also certainly lead to political empowerment of the people.

With local ordinances, the size of the support does not have to be as large as when enacting national laws or their amendments. They involve concerns that are closely related to daily life (including going to and from work, school and marketplace), and with a little effort, they can attract the attention of the residents and students. The outcome can also be more easily felt. By enacting and/or amending ordinances, we can change the local community for the better and make progress in achieving the SDGs in the local areas more efficiently as we near the achievement date.

Eiji Hamanishi is an Associate Professor in the Department of Contemporary Sociological Studies, Faculty of Literature, Notre Dame Seishin University (NDSU) in Okayama City. He is also the Chief of the NDSU Center for Regional Collaboration and SDGs Promotion.

For more information, please contact Eiji Hamanishi through this e-mail address: hamanishi@post.ndsu.ac.jp.

Endnote

- 1 Based on minutes of the regular meeting of the Public Safety Commission, 25 April 2019.

「声を上げれば、社会は変えることができる」
1. 2018、19年に、ノートルダム清心女子大（岡山市北区伊福町）の濱西栄司准教授が中心となって展開された活動は、SDGs（持続可能な開発目標）の一つの実践例と言える。きっかけは女子大生の勇気ある声だった。

近年、大都市で若い女性性がホステスなどのアルバイトに就く勧誘される問題が明らかになっていった。県内でもJR岡山駅周辺の環境悪化が危惧され、濱西准教授が学生にアンケートした。結果は、回答者120人のうち約半数が「被害経験がある」と打ち明けた。

被害実態は県議会の質問戦でも取り上げられた。県警も執拗な勧誘行為を新たな取り締まり対象に含めた県迷惑行為防止条例の改正に乗り出

「社会を変える」実践

改正県迷惑行為防止条例について学ぶ女子学生 昨年10月25日



迷惑行為に勇気ある声

す。県議会を傍聴し、推す。卒論や研究テーマに移を見守った文学部現代社会学科の3年女子(21)生も出るなど、SDGsは「若い世代が行動するの必要を感じた。政治や社会問題に関心を持つきっかけにもなった」と話だ。

同大では14年に開設された地域連携推進センターを、19年に「地域連携・SDGs推進センター」とし、中四国地方の団体との連携を進めてきた。一人一人を大切に建学の精神に基づき、ジェンダー平等実現や人権などに関わる活動に取り組んでいる。「教員、学生ともに地域の貢献、発展に寄与する活動に積極的に取り組んでいき

ズーム SDGs 環境を保全しつつ、人々が豊かに暮らせる社会の実現などを旨とする。貧困や飢餓の撲滅、保健と教育の保障、気候変動対策などに各国が協力して取り組むため、国連が2015年に採択した。政府や自治体、企業などが30年までに実現すべき目標として、17分野169項目を挙げて

SDGs 環境を保全しつつ、人々が豊かに暮らせる社会の実現などを旨とする。貧困や飢餓の撲滅、保健と教育の保障、気候変動対策などに各国が協力して取り組むため、国連が2015年に採択した。政府や自治体、企業などが30年までに実現すべき目標として、17分野169項目を挙げて

学生が被害の詳細を書いたカード



たい」とセンター長の山下美紀文学部長は展望する。まちづくりや観光イベント、教育ボランティアといった学科ごとの特色を生かした活動が生まれているのもその効果だろう。

今年1月、国連はSDGs達成のための「行動の10年」をスタートさせた。濱西准教授（現・センター主任）は「国連が目指すのは社会をよりよく変えること。センターの活動もチェンジに主題を置いて進めたい」と話した。（斎藤章一朗）

山陽新聞 2020年11月2日

3) ナミュール・ノートルダム修道女会国連オフィス・ブログ内の SDGs 記事 (訳)

(昨年度に引き続き、本学母体のナミュール・ノートルダム修道女会国連オフィスのブログ記事 (<https://sndatun.wordpress.com/>) から SDGs に関連するの翻訳・掲載については、同オフィス代表 Sr. Grace Amarachi Ezeonu より了承を頂いている。訳文は昨年に引き続き、2019 年度英語英文学科卒業生 (現、東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム修士課程) 吉田岬による (センター主任による添削済))

教育の国際デー：人、地球、繁栄、そして平和のための学習

2020 年 2 月 17 日掲載 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ

国際連合総会は、平和促進と持続可能な開発についての教育の役割を祝して 1 月 24 日を国際教育デーに定める決議案 73/23 を 2018 年 12 月 3 日に採択しました。

より多くの子どもたち、特に開発途上経済圏の子どもへの教育へのアクセスを提供する上で、過去数十年の間で進歩がありますが、さらにより多くのことがなされる必要があります。国際連合教育科学文化機関 (UNESCO) によると、2 億 5800 万人以上の子どもや若者は未だに学校へ通っていません。6 億 1700 万人の子どもと青年期の若者が読みと基礎的な算数ができません。サハラ以南のアフリカに住む少女のうち、40%未満が前期中等教育学校を修了し、そして、約 400 万人の難民の子どもや若者が就学していません。「これは受け入れられません。教育は人権であり、公共の利益であり、公的責任なのです。」したがって、不平等を押し付ける道具になってはならないのです。「包括的で公平な質の教育と人生における機会」を 2030 年までに提供することは、持続可能な開発目標の目標 4 であり、2015 年に国連加盟国によって採択されています。政府は、これらの目標を達成するための責任を果たさなければなりません。教育は SDGs 達成の鍵です。そして、国連副事務総長、アミナ・モハメドが正しく指摘しているとおり、「人々の教育的なニーズを実現できないという失敗は、SDGs の失敗に等しいのです」。

目標 4：事実と統計

先進国における初等教育の入学率は 91%に達していますが、5700 万人の子どもたちが未就学です。／・学校へ通っていない子どもたちの半数以上がサハラ以南のアフリカに住んでいます。／・初等教育の未就学の子どもたちのうち、推定 50%が紛争地域に住んでいます。



より詳しく：持続可能な開発目標 4 における 10 のターゲット：<https://bit.ly/36hC5lG>

国際教育デー：<https://bit.ly/36jCVhW>

COVID-19 パンデミック：私たちの社会では不平等のマスクを取ろう

2020 年 7 月 8 日掲載 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ



コロナウイルスのパンデミックは、多くの国で存在する固定化された制度的不平等の現実の姿を暴いてきました。パンデミックの初期段階では、COVID-19 という病気がイコライザー（平等化を推進するもの）であると言われました。しかしながら、完全にそうであると証明されてはいません。様々な国から浮かび上がっている実態は、イコライザーであるというより、むしろパンデミックが、多くの国に存在する構造的で社会経済的な不平等を暴露してきたことを明らかにしています。アメリカやイギリス、フランスといった国々の例を挙げるだけでも、いわゆる少数派エスニック・グループ（黒人、先住民、アジア人、ラテン系、移民）や介護施設の高齢者が、コロナウイルスによって不釣り合いな影響を受けています。

コロナウイルスの破壊的な経済的社会的影響による悲痛な経験は、アメリカの都市ミネアポリスでの白人警察官によるラテン系アメリカ人、ジョージ・フロイドさんの残酷な殺害と合わさって、警察の暴行に対する世界的な抗議運動と長年の悪魔的な人種差別主義に関する議論に火をつけました。アフリカ系の人々は、何世紀にもわたる人権侵害や制度的人種差別に苦しんできたのであり、南北アメリカやヨーロッパやカリブ海における太平洋横断の奴隷貿易や隷属化の長い歴史によってもたらされているものなのです。

「息ができない」というジョージ・フロイドさんの叫びは、ミネアポリス、ニューヨーク、ワシントン DC、ロンドン…の路上において人々の共鳴を生み出し、正義を否定され、怒りや悲しみや憤怒を解き放ちました。我々が全世界で目の当たりにしてきた抗議行動は、[これまで] 耳を傾けてもらえなかった人々の叫びであり、つまり、「公の場における痛みの処理…、そして被害者による意図的かつ共同的な抗議活動」なのです。また、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアはかつてこう言いました、「いまや沈黙は裏切りである」。今がその時なのです。人種主義者や特定の民族に偏見を持つ人や

同性愛恐怖症者にならないように、と主張するだけでは、もはや十分ではありません。しかし我々は、全ての形態の偏見に対して行動し声を上げ、そして他のグループへの優位や高揚を促すあらゆる物事に「アンチ」にならなければいけません。人種主義や全ての形態の差別は人類の罪なのです。それゆえ真理、和解、正義は我々全員を待ち構えています。

COVID-19 で休会を余儀なくされて 3 カ月後、ジュネーブで第 43 回国連人権理事会が 6 月 15 日月曜日に再招集され、ジョージ・フロイドさんの殺害を受けて、人種主義と警察による残虐行為についての緊急会議が行われました。会議はアフリカグループに支援されています。



北京 + 25 : 「ジェンダーの平等と全ての女性・女子のエンパワーメントの実現を促進する」

2020 年 9 月 9 日掲載 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ



女性の権利とジェンダー平等の達成は、国際連合の最優先事項の 1 つです。第 75 回国連総会は、10 月 1 日にハイレベル会合を開催し、第 4 回世界女性会議（北京女性会議としても知られている）

25 周年と、「ジェンダーの平等と全ての女性・女子のエンパワーメントの実現を促進する」をテーマとする北京行動綱領の採択を記念しました。世界中から女性を招いた北京会議は、ジェンダーの平等と女性の権利を求める画期的な出来事でした。

10 月 1 日のハイレベル会合での開会の挨拶の中で、アントニオ・グテーレス国連事務総長は、40% 近い妊産婦死亡率の減少やかつてないほどの多くの女子の就学といった進展がなされていますが、さらにより多くのことがなされる必要があると言及しました。彼は、今もなお世界的に女性や女子が直面しているいくつかの問題を強調しました。以下のような問題が含まれます。

- ・ 毎年、1200 万人の女子が 18 歳の誕生日を迎える前に結婚しています。
- ・ 世界の一部地域において女性であることを理由にした殺害（femicide）の蔓延——例えば、2017 年には、世界中で平均にして毎日 137 人の女性が自身の家族に殺されています。
- ・ 和平交渉、気候に関する協議、全ての種類における地域、国家、そして国際レベルでの意思決定の役割からの女性の排除。
- ・ 女性は平均的に、世界レベルで男性が持つ法的権利のうちの 75% しか持っていません。
- ・ 世界銀行は、ジェンダーで同等の生涯勤労所得が同等になるためには 150 年かかり得ると推定しています。また、その格差を埋めることで、人的資本に換算して 172 兆ドルが生まれうると推定しています。我々の失っているものはそれなのです。



グテーレス氏は、彼のリーダーシップの下で、国連はトップの役職において男女同数を達成してきたことを付け加えました。

より詳しく：第 4 回世界女性会議 25 周年ハイレベル会合：<https://bit.ly/3mInTLl>

貧困撲滅のための国際デー：すべての人の社会的・環境的正義のために共に行動しよう

2020年11月16日掲載 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ



絶対的貧困は人権に違反しています。彼もしくは彼女の、神から与えられた人間としての尊厳を奪うのです。国連経済社会

局によると、「**貧困は唯一の経済問題ではなくむしろ、収入の不足と尊厳を持って生きるための基本的な能力の不足の両方を含む多次元現象なのです。**」貧困に陥っている人が経験しているのは、自分たちの権利を実現することを阻害し貧困を長引かせるような、多くの、相互関係があり双方に強固な剥奪です。貧困に陥っている人々が被っている剥奪されているものがいくつか存在します——危険な労働条件、安全ではない住居、栄養のある食事の不足、正義への不平等なアクセス、政治的権力の不足、医療へのアクセス制限などです。



1992年12月22日、国連総会は、決議案47/196において、10月17日を、貧困撲滅のための国際デー（the International Day for the Eradication of Poverty）としました。貧困撲滅のための国際デーの今年のテーマは、「すべての人のための社会的・環境的正義を達成する挑戦」です。貧困の多次元性への認識の高まりは、これら2つの問題が切り離せないことを表しています。社会的正義は、環境的正義を積極的に修正することなしには完全に実現されません。フランシス教皇のロダト・シ [Laudato Si] は2015年の回勅でこのような事実についても強調しました、「我々は、1つは環境的そして他方は社会的という2つの別々の危機に直面しているのではなく、むしろ社会的で環境的な一つの複雑な危機に直面しているのです。解決に向けた戦略が求めているのは、貧困を克服し、排除された人々に尊厳を取り戻し、そして同時に自然を保護するという統合的アプローチです」（LS #139）。気候変動に由来する異常気象現象が、貧困に陥っている人々に、より破壊的な影響をもたらすことは根拠を持って示されてきました。

貧困とその他の不公正の形態は、不安と暴力をも生み出します。前アメリカ合衆国大統領、バラク・オバマ氏はこれを2016年9月の国連総会で示唆しており、彼は世界のリーダーへ「1%の人が99%の最下層の人々と同等の富をコントロールする世界は決して安定しないのです。」と再認識させました。コロナウイルスが全世界のあらゆるコミュニティを荒廃させ続けている中で、多くの国で経済的、社会的不平等があらわになっています。絶対的貧困は、いかなる社会の社会的、政治的安定性にも脅威を与えているのです。したがって政府は、最近のナイジェリアやその他の国が経験したように、抗議する若者を強制的あるいはしばしば暴力的に取り締まるよりも、むしろ、不公正に取り組み貧困を削減するような社会的な計画の実行に注力しなければいけないのです。

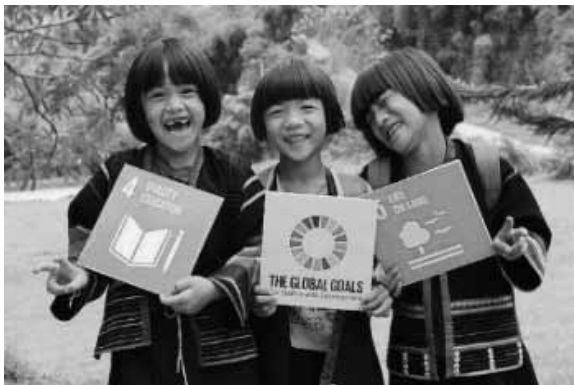


より詳しく：貧困撲滅のための国際デー：<https://bit.ly/3edbsUE>

絶対的貧困と人権に関する国連特別報告者のレポート（フィリップ・アルストン）：
<https://bit.ly/2TKx3dV>

国際ガールズ・デー 2020：私の声、私たちの平等な未来

2020 年 11 月 23 日掲載 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ



10 月 11 日は国際ガールズ・デーとして祝われています。国連の推定によると、11 億人を超える 18 歳以下の女子が地球全体にいます。これらの女子は、女性リーダーや起業家や変革者のこれまでの世界で最も大きな世代となる態勢にあるのです。今年の国際ガールズ・デーのテーマは、「私の声、私たちの未来」です。女子は単なる被害者ではなく、変化の担い手でもあり、それを多くの女子が世界のあらゆる場所で今日示しています。

教育者や親、そして社会として、我々は我々のガールズが彼女たち自身に自信を持てるように力づけ、彼女たちが全力で取り組めば夢を実現さ

せられるのだと信じ続けなければなりません。国際ガールズ・デーに向けたイベントの一部として、SNDatUN は、女子に関わる問題に対する全世界の若い女性の声を拡大するための国際ガールズ・デーサミットによって組織された、11 日間のアクションの第 2 日目 Twitter キャンペーン [the second day of the 11 Days of Action Twitter campaign] に協賛しました。我々の Twitter のチャットでも、女子を安全な状況に置き続けることと教育の機会均等の持つ力に焦点を当てました。女子が男子と同等の賃金を得る上で、またジェンダーに由来する暴力に対抗する上で、教育の改善やすべての子どもへの教育が助けになると信じています。

知っていましたか？

- ・全世界で、同年代の男子は 10 人に 1 人であるのに対し、15-19 歳の女子の約 4 人に 1 人が雇用されておらず、教育も職業訓練も受けられていません。2021 年までには 4 億 3500 万人の女性と女子は一日 1.9 ドル以下で生活することになります—COVID-19 の結果貧困に追い込まれた 4700 万人も含まれています。
- ・全世界の女性の 3 人に 1 人は身体的あるいは性的暴力を受けた経験があります。COVID-19 の大流行以降、女性や女子に対する暴力特に家庭内暴力は増大したと新たなデータは示してい

ます。

- ・ 少なくとも 60% の国は今もなお、娘の土地や土地以外の資産相続権に対して法的にも実質的にも差別しています。(UN Women より)

より詳しく：国際ガールズ・デー：<https://bit.ly/3eiOQ5d>

子どもと若者への暴力・虐待防止のための 19 日間運動（11 月 1 ～ 19 日）の情報一式：
<https://bit.ly/35V7sEK>

世界人権デー：「より良く回復し、人権のために立ち上がろう」

2021 年 1 月 4 日掲載 シスター・グレース・アマラチ・エゾヌ



12 月 10 日は国際人権デーとして祝われています。1948 年のこの日、国連総会は世界人権宣言——「すべての人は、人種、皮膚の色、性、言語、宗教、政治上その他の意見、国民的若しくは社会的出身、財産、門地その他の地位に関わらず、人間としての権利と自由を享受するという不可侵の権利を宣言する節目となる文書」を採択しました。

2020 年国際人権デーのテーマ、「より良く回復し、人権のために立ち向かおう」は COVID-19 のパンデミックに関連しています。人権はポスト COVID-19 の世界において中心になるのです。以下の文章は、その国連人権デー 2020 キャンペーンからの引用したものです。読んでみてください。：

「深刻化する貧困、増大する不平等、構造的かつ固定化された差別、そしてその他人権擁護における格差によって、COVID-19 による危機は加速されてきました。これらのギャップを埋め、人権を向上

させるための唯一の手段は、我々が完全に回復し、より良く、より強靱で、持続可能な世界を取り戻すことが出来るようにすることなのです。



- ・ **あらゆる種類の差別を絶つ**：構造的な差別と人種主義は COVID-19 による危機を悪化させてきました。平等と非差別は、ポスト COVID-19 の世界で、核となる必要条件なのです。
- ・ **不平等に対処する**：この危機から回復するために、我々は不平等のパンデミックにも対処しなければいけません。そのために、我々は経済的、社会的、文化的権利を促進し保護する必要があります。我々は、新しい時代のために、新たな社会的契約が必要です。
- ・ **参加と団結を促す**：我々は全員ここにいます。個人から政府、市民社会や草の根レベルのコミュニティからプライベートセクターにいたるまで、一人一人が、現在そして未来の世代に

とってより良い、ポスト COVID-19 の世界を構築するための役割を担っているのです。我々は、最も病の影響を受けやすく、最も脆弱である人たちの声が回復への努力へ届くようにする必要があります。

- ・ 持続可能な開発を促進する：我々は、人々と宇宙のために持続可能な開発が必要なのです。人権、2030 年アジェンダそしてパリ協定は、ひとりも取り残さない回復の土台なのです。」

より詳しく：国連人権デー：<https://bit.ly/39vLrQi>

地域連携・SDGs推進センター実績報告書 [2020(令和2)年度]

2021年5月発行

編集・発行 ノートルダム清心女子大学 地域連携・SDGs推進センター
〒700-8516 岡山県岡山市北区伊福町二丁目16番9号
TEL 086-252-7054
FAX 086-252-7044

印刷 有限会社 ダイニ印刷
〒700-0961 岡山県岡山市北区北長瀬本町13番26号
